

都市計画マスタープランー地域別構想

(素案)

< 目 次 >

第1章 地域区分の設定	1
第2章 地域別のまちづくり方針.....	2
1 北部地域	2
2 中部地域	9
3 北西部地域	18
4 西部地域	25
5 南部地域	32
第3章 都心エリアのまちづくり方針.....	39

第1章 地域区分の設定

コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりを推進するため、将来都市構造で位置づけた都心エリアや周辺市街地の配置の考え方にに基づき、学校区、地形・土地利用、幹線道路及び公共交通などの地域の繋がりも踏まえながら、地域区分を次の5区分で設定します。

- 北部地域：小矢部川、富山湾、二上山に囲まれた地域で、JR 氷見線、国道 415 号を骨格に伏木駅を中心とした市街地が形成された地域。
- 中部地域：庄川の扇状地に広がる地域であり、中心市街地から高岡駅・新高岡駅の都心エリアを中心にあいの風とやま鉄道、JR 氷見線、JR 城端線、万葉線、国道 8 号、国道 156 号などの交通ネットワークで結ばれた牧野・立野地区を含む地域。
- 北西部地域：小矢部川左岸の田園地帯と西山丘陵地など自然豊かな地域であり、国道 160 号や県道小矢部伏木港線などを骨格に周辺地域と連携する地域。
- 西部地域：福岡駅を中心に田園地帯から中山間地にかけて広がる旧福岡町の生活圏であり、あいの風とやま鉄道、国道 8 号を骨格に市街地が形成されている地域。
- 南部地域：散居村の形態を残す田園地帯に広がる地域であり、戸出・中田地区を中心に市街地が形成され、JR 城端線、国道 156 号や東西の県道を骨格に周辺と連携する地域。

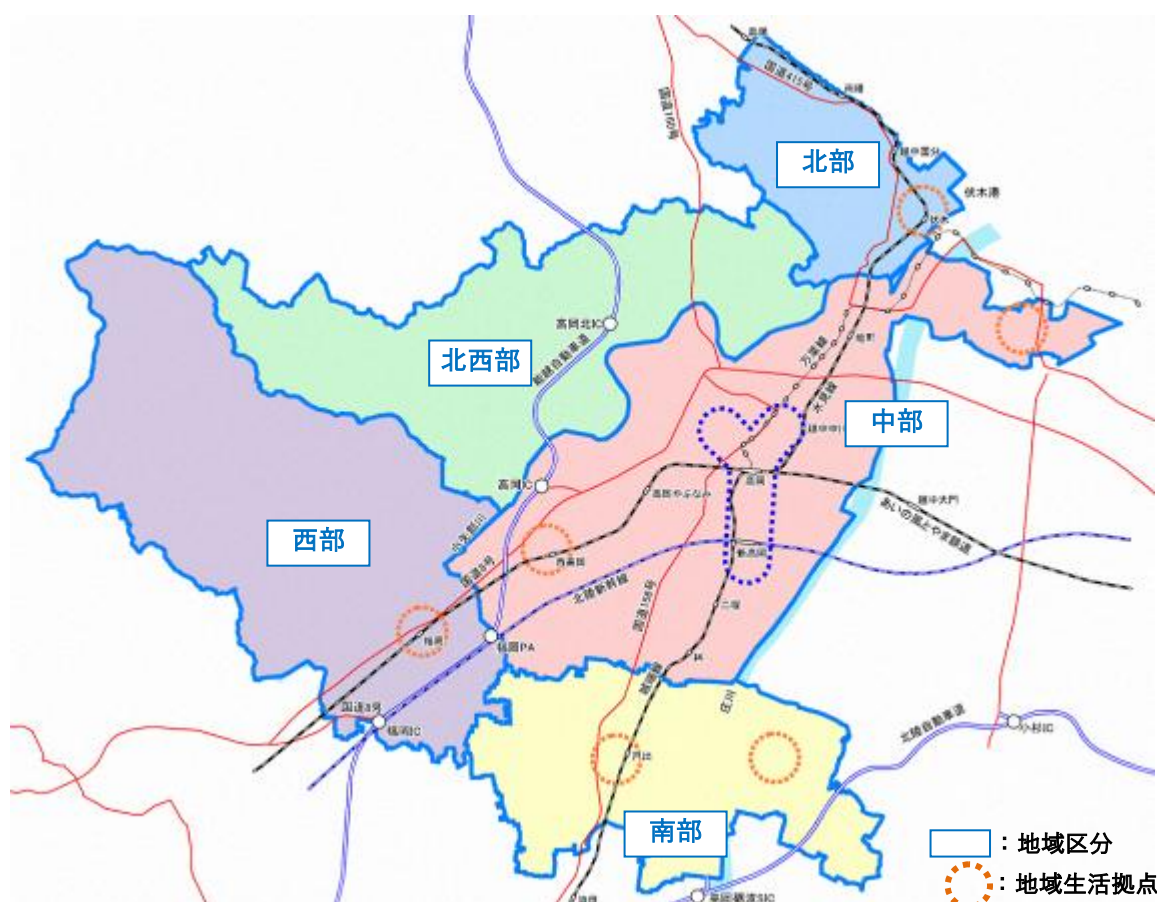


図 地域区分の設定

第2章 地域別のまちづくり方針

1 北部地域

1-1. 北部地域の概況

（歴史）

- ・万葉の歌人・大伴家持が国守として越中国府に赴任し多くの秀歌が詠まれている万葉の故地であり、前田家と関わりの深い勝興寺などもあり、みなと町として発展してきた。伏木の市街地には現在も歴史的な町並みが残されています。

（産業）

- ・総合的拠点港の伏木港の整備が進められており、物流・人流の拠点としての港湾機能の拡充と併せた、産業集積の促進を図ることとしています。

（自然等）

- ・海、山、川と変化に富む地形であり、団地が広がっているほか、限られた平坦地と坂道の多い傾斜地において、伏木駅周辺では比較的人口密度の高いコンパクトな市街地が形成されています。
- ・市街地の背後に広がる二上山には、景色や展望、万葉の歌碑を楽しめるハイキングコースが整備され、四季折々の季節を感じられる観光スポットにもなっています。

（災害）

- ・一方、丘陵地には土砂災害の危険性のあるエリア、沿岸部には津波浸水想定区域があるほか、市街地内には地震時に倒壊の危険性の高い建物が多いなど、様々な災害リスクが潜在する地域となっています。

（都市機能）

- ・コンパクトな市街地であるため、医療施設や高齢者福祉施設が徒歩圏内で利用できる環境が整っていますが、地域内に商業施設（1,000㎡以上のスーパー、ドラッグストア）の立地が少なく、住民からも住みにくい理由として買い物の不便が多くあげられています。

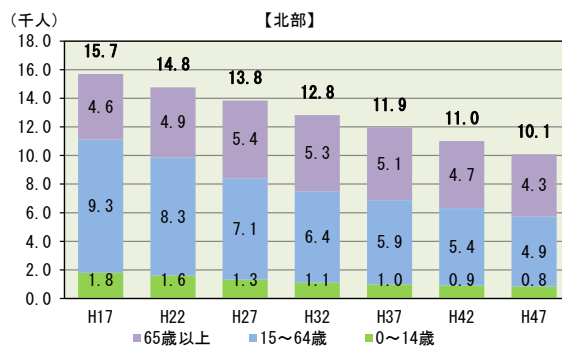
（交通）

- ・JR 氷見線や路線バスで都心エリアと氷見市方面に連絡していますが、運行本数は少なく（JR の運行本数は平日 18 本/日）、利用者数が減少（JR は主に定期利用者の減少）しています。

（その他）

- ・地域コミュニティの繋がりが強く、豊かな自然環境に対する住民の評価は高いですが、市内で最も人口減少と高齢化が進んでおり、他地域よりも住宅地や商業地の地価下落が進んでいます。

種別	項目	データ
面積	市全体	20,957 ha
	北部地域	1,651 ha
	市全体に占める割合	7.9 %
人口 (H27)	市全体	172,125 人
	北部地域	13,783 人
	市全体に占める割合	8.0 %



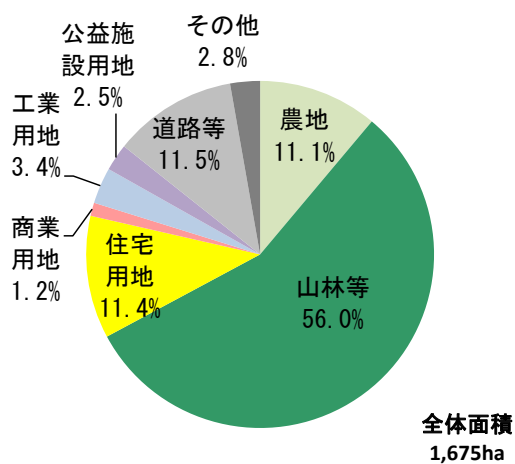
(資料：国勢調査)

図表 地域の概況（面積・人口）



(資料：H25 都市計画調査)

図 土地利用現況



(資料：H25 都市計画調査)

図 土地利用現況面積割合



(資料：高岡市ハザードマップ)

図 土砂災害・洪水・津波浸水の危険性のあるエリア

1-2. 北部地域のまちづくりの方向性

(1) 地域の強みと弱みについて

地域の概況から、北部地域が持つ「強み」と「弱み」は、次のように整理できます。

北部地域の「強み」

- コンパクトに形成された市街地と比較的高い人口密度
- 伏木外港の整備に伴う周辺環境の整備と機能集積
- 豊かな自然環境と古代の越中国府、近世の勝興寺、みなと町などの独自の歴史・文化資産
- 祭礼行事などを通じて形成された繋がり強い地域コミュニティ

北部地域の「弱み」

- 中心市街地及び周辺地域への公共交通によるアクセス性の低さ
- 傾斜地（坂道）が多く、土砂災害や津波の危険性を有する市街地
- 市内で最も高い高齢化率と人口減少率
- 日常生活に必要な商業集積の少なさ

(2) 地域のまちづくりにおける課題

地域の「強み」の部分伸ばし、「弱み」の部分改善していく観点から、北部地域のまちづくりにおける課題は以下のように整理することができます。

北部地域のまちづくりにおける課題

- ◎コンパクトな市街地を活かした効率的な都市機能の配置
- ◎自然環境や歴史・文化を活かした交流の拡大
- ◎総合拠点港のポテンシャルを活かした雇用の場の確保
- ◎増加する高齢者の生活を考慮した移動手段の確保
- ◎多くの人を呼び込む雨晴海岸や二上山の自然環境や景観の保全
- ◎潜在する様々な災害リスクを考慮した土地利用の推進

(3) 地域のまちづくりのテーマ

北部地域が、豊かな自然を身近に感じながら、万葉から続く歴史・文化を活かした個性豊かなコンパクトな地域として持続していくため、まちづくりのテーマを次のように設定します。

【まちづくりのテーマ】

◎ 万葉から続く歴史・文化を活かした個性豊かなまちづくり

- ・越中国府から勝興寺と寺内町、みなと町等の歴史・文化を活かし、地域の回遊性を高め、多くの観光客など人を引きつける個性豊かなまちづくりを進めます

◎ 海と山など豊かな自然を身近に感じるまちづくり

- ・優れた自然景観を有する雨晴海岸や二上山などの豊かな自然を身近に感じ、道の駅、サイクリングコースや観光列車などを活かした地域の振興を図ります

◎ 環日本海交流の玄関口を活かしたまちづくり

- ・国際交流や物流の拠点となる伏木港の整備・利活用の促進と、地域の活性化へ向けたクルーズ船等の誘致と環境整備を進めます

1-3. 北部地域のまちづくり方針

(1) 人口減少・少子高齢社会の中で持続的に発展する都市づくり

① 鉄道駅を中心とした市街地の維持・再生

鉄道によって中心市街地や近隣市にアクセス可能であり、歴史的風致の残る伏木駅周辺に居住や都市機能を維持・誘導することで、長い歴史を持つ伏木の市街地の維持・再生を図ります。

② 長期未着手の都市計画道路の見直し検討

都市計画決定されてから長期間未着手となっている都市計画道路については、社会経済情勢を踏まえた将来のまちづくり上の必要性を勘案し、見直しを行います。

(2) 中心市街地と周辺市街地が連携して躍動する都市づくり

① 地域生活拠点の形成

商業や医療など地域の生活に必要なサービス機能が集積する地域生活拠点を伏木駅周辺に形成し、広域都市拠点と連携、役割分担しながら北部地域の活性化を図ります。

② 地域内で連携できるコンパクトな市街地の形成

ア 住居系土地利用

国道 415 号沿道の複合住宅地区では、低層及び中高層の住宅を中心としつつ、沿道型の商業業務施設等の立地も許容する複合的な土地利用を図ります。

その周辺の一般住宅地区では、低層の戸建住宅・共同住宅を中心とする低密度な土地利用を基本として、ゆとりある良好な居住環境の維持・保全を図ります。特に、伏木駅周辺や越中国分駅周辺の一般住宅地区では、積極的な居住の誘導を図ることとします。

イ 商業系土地利用

伏木駅前の生活商業地区では、商業業務施設、各種公共施設及び住宅が集積する中密度な土地利用を維持・誘導します。

ウ 工業系土地利用

臨港地区に指定された工業地区では、既存の工業集積を維持するとともに、未分譲地や必要な条件の整った跡地への新たな企業誘致を進めます。

伏木外港の流通業務地区では、国際交流及び物流の拠点として、港湾施設や荷役環境等、港湾機能の継続的な充実に努めます。

エ 自然系土地利用

二上山や雨晴海岸など、市の代表的な観光資源にもなっている良好な自然環境を保全・活用するとともに、太田地区に広がる優良農地や田園集落の保全を図ります。

(3) 「ものづくり」を中心に活気ある産業を育む都市づくり

① 臨港地区内への企業誘致

伏木港の内港から外港への機能移転を進めるとともに、外港を含む臨港地区内の未利用地を中

心に優良企業の誘致など計画的な土地利用を促進します。

② 伏木港における物流拠点整備

環日本海交流の玄関口であり、海上物流の拠点である伏木港については、ROR0 船に代表される海陸一貫輸送など物流需要の多様化に対応した港湾機能の充実・強化を国・県に働きかけるとともに、県が推進する「環日本海物流ゴールデンルート構想」との連携により伏木港の拡張を促進します。

③ 地域と連携した商店街の活性化

伏木の商店街では、地域との連携を通じて交流の場としての商店街づくりに努めるとともに、商店街が取り組む空き家・空き店舗対策の支援、日用品を中心とした商業施設の維持・誘導により活性化を図ります。

(4) 広域間と地域間の交通ネットワークが充実した都市づくり

① 戦略的道路による伏木港へのアクセス強化

伏木港から能越自動車道高岡北 IC へのアクセス強化を図るため、国・県などの関係機関と連携して戦略的道路の整備を促進します。

② 地域のニーズや特性に応じた公共交通の維持・充実

JR 氷見線や路線バスの利用しやすい環境づくりを図るため、交通事業者と連携し、利用者ニーズを踏まえた運行本数やダイヤの見直しに努めます。また、地域の需要に応じて、地域によって運行される地域バス・地域タクシー等への支援を行います。

③ 環日本海交流の玄関口の整備

伏木外港のさらなる整備や内港地区の再整備、魅力あるウォーターフロント（快適で親しまれる港湾空間）の形成を促進し、港湾機能の拡充を図ります。

またみなと町伏木にふさわしい国際化に対応した機能充実を図るとともに、伏木外港の土地利用の促進や、クルーズ船等の誘致と受け入れ環境の整備を進め、産業の土地利用や観光の活性化に繋がります。

(5) 歴史・文化と自然を活かした都市づくり

① 歴史資産の保全・活用

太田地区では、武田家住宅、桜谷古墳や国泰寺などの歴史資産を保全活用する。また、「歴史まちづくり計画」において重点区域に位置づけられた伏木地区では、みなと町伏木や勝興寺などの文化財の保存修理事業、勝興寺寺内町参道における道路修景整備事業の推進や建築物の景観誘導への支援を進めるとともに、勝興寺風致地区の運用や景観計画に基づく規制誘導や屋外広告物の規制強化等も検討し、歴史的風致の維持・向上を図ります。

② 伏木地区ストリート構想の推進

「伏木地区ストリート構想」に基づき、伏木駅を起点とし、勝興寺を中心に旧寺内町の高台に

ある歴史の町並み、古代の越中国府、二上山丘陵山麓に広がる万葉の歴史や、旧伏木浦に栄えた近代みなと町を巡る回遊ルートを設定します。

市民や民間事業者、その他のまちづくり団体等と協働し、歩行空間・案内サインや、店舗・休憩場所の整備とその情報提供に努め、観光客を受け入れ、もてなす環境づくりと同時に、地元の人が安全で快適に歩ける歩行者空間づくりに取り組みます。

③ 眺望を楽しむことができる海岸の整備

世界で最も美しい湾クラブに加盟した富山湾に面した雨晴海岸や国分海岸では、立山連峰と富山湾を一望できる景観を活かし、人々が海にふれあえる場として、自然環境の保全に努めるとともに、景観や眺望にも配慮した環境整備を国・県に働きかけていきます。

「道の駅雨晴」では、富山湾岸サイクリングロードとも連携し、観光・休憩施設、飲食・物販施設の適正な維持管理に努めるほか、観光振興の拠点としても活用を図ります。

④ 身近な自然環境の保全・活用

身近な自然環境である二上山については、景勝地としての国定公園や風致地区に指定されており、土地利用規制を通じて保全を図るとともに、海水浴場、雨晴マリナー、キャンプ場、万葉ライン、散策ルートや休憩施設の整備・維持を通じて多くの人々に利用されるレクリエーション空間として活用を図ります。

⑤ 都市計画公園の見直し検討

都市計画決定されてから長期間未着手となったままの都市計画公園については、社会経済情勢や計画的な市街地形成の必要性等を勘案しながら、見直し検討を行います。

(6) 安全・安心で快適に暮らせる都市づくり

① 土砂災害による被害の軽減

伏木の市街地内の土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定された区域においては、警戒避難体制の充実に努めるとともに、危険が想定される新たな開発の抑制に努めます。

② 沿岸部の津波被害の軽減

津波被害が想定される沿岸部では、防波堤や護岸堤、消波工等の整備を促進するほか、避難ビルや避難経路等の確保に努めるとともに、迅速な避難を可能にするための避難体制の整備を進めます。

③ 良好な自然景観の保全と活用

雨晴海岸、二上山、小矢部川などの自然環境の保全を通じて、市街地から眺望される良好な自然景観の保全するとともに、雨晴マリナーやキャンプ場などによりそれらの活用を図ります。

国の名勝にも指定された、松尾芭蕉ゆかりの「おくのほそ道の風景地一有磯海一」については、女岩を前景として遙か立山連峰を望む眺望の保全と活用を図ります。

また、二上山山頂は、市街地を一望できる眺望点にもなっているため、眺望点とその周辺における環境整備と併せて、眺望を阻害する建築物等に対する規制誘導も検討します。

北部地域

万葉から続く歴史・文化を活かした個性豊かなまちづくり

越中国府から勝興寺と寺内町、みなと町等の歴史・文化を活かし、地域の回遊性を高め、多くの観光客など人を引きつける個性豊かなまちづくりを進めます

海と山など豊かな自然を身近に感じるまちづくり

優れた自然景観を有する雨晴海岸や二上山などの豊かな自然を身近に感じ、道の駅、サイクリングコースや観光列車などを活かした地域の振興を図ります

環日本海交流の玄関口を活かしたまちづくり

国際交流や物流の拠点となる伏木港の整備・利活用の促進と、地域の活性化へ向けたクルーズ船等の誘致と環境整備を進めます

【凡 例】

- 地域生活拠点
- 計画・開発促進地区
- 都市間連携軸
- 地域間の連携
- 戦略的道路

- 土地利用区分
- 一般住宅地区
 - 複合住宅地区
 - 広域商業地区
 - 生活商業地区
 - 工業地区
 - 流通業務地区
 - 産業支援地区
 - 農業振興地区
 - 田園集落地区
 - 自然環境保全地区
 - 河川

日常の移動手段のイメージ

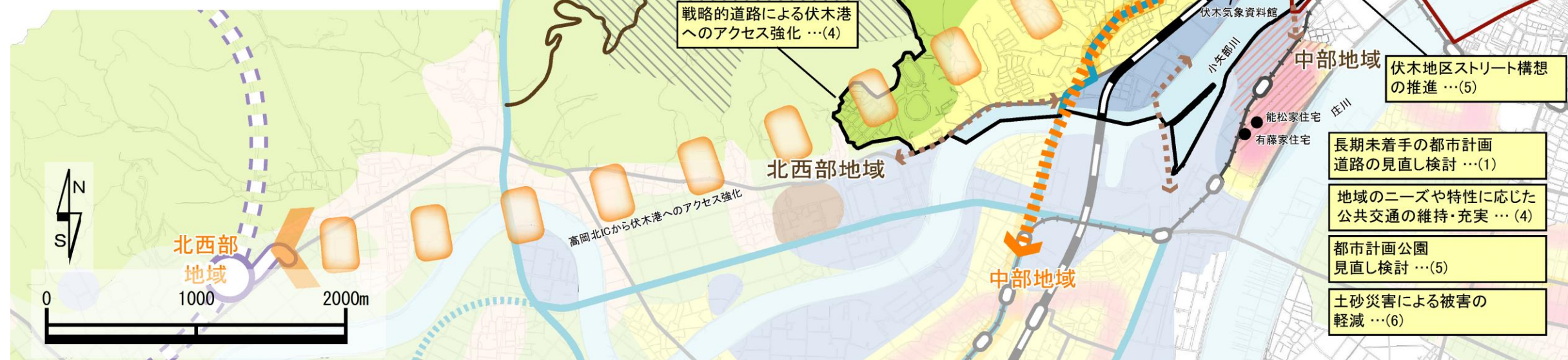
- 内側：主に徒歩と公共交通
- 外側：主に自動車
- 高規格幹線道路
- 主要幹線道路（環状放射道路）
- その他主な幹線道路
- 鉄道（新幹線）
- 鉄道（JR・あいの風とやま鉄道）
- 鉄道（万葉線）
- 歴史まちづくりを重点的に進める区域
- サイクリングコース
- 回遊ルート（ストリート構想）
- 地域境界

まちづくり方針

- (1)人口減少・少子高齢社会の中で持続的に発展する都市づくり
- (2)中心市街地と周辺市街地が連携して躍動する都市づくり
- (3)「ものづくり」を中心に活気ある産業を育む都市づくり
- (4)広域間と地域間の交通ネットワークが充実した都市づくり
- (5)歴史・文化と自然を活かした都市づくり
- (6)安全・安心で快適に暮らせる都市づくり

コンパクト・アンド・ネットワークの方針

- ・JR氷見線で広域都市拠点と接続する伏木駅周辺に地域生活拠点を形成し、日常生活に必要な都市機能を誘導します。
- ・JR氷見線伏木駅及び越中国分駅を中心に居住を誘導します。



名称おくのほそ道風景地一有磯海一



道の駅雨晴（イメージ）



二上山



伏木港



勝興寺



みなと町



図 北部地域のまちづくり方針図

2-1. 中部地域の概況

(人口)

- ・地域内には市全体の約7割が居住し、他地域よりも高い人口密度が維持されています。

(歴史)

- ・前田利長により城下町が開かれ、その後、町民主体の商工業の町として発展した歴史を持つ地域であり、地域内には、高岡城跡や瑞龍寺、加賀藩主前田家墓所（前田利長墓所）など多くの歴史・文化資産が残されています。また、銅鑄物や漆器の伝統工芸も多く集積し、山町筋や金屋町をはじめとする歴史的町並みは、本市を代表する観光スポットになっています。

(自然等)

- ・牧野や立野地区では土地区画整理事業を中心に良好な住宅団地が形成されているほか、市街地の縁辺部には農地などの低未利用地が多く分布しています。

(災害)

- ・一方、歴史的町並みを含む中心市街地では、狭隘な道路を残す密集市街地が分布しており、地震発生時には広範囲において建物倒壊、大規模な延焼火災が発生する危険性があります。また、地域全体が平坦な地形であるため、沿岸部には津波浸水想定区域があるほか、市街地内にも洪水による浸水が想定されるエリアが広く分布しています。

(都市機能)

- ・都心エリアには、商業、医療、高齢者福祉などの生活サービス機能が多く集積しているほか、国、県及び市の行政機関、総合病院、各種文化施設など、多くの高次都市機能が集積しています。また、牧野や立野の周辺市街地においても生活サービス機能が充実しており、中部地域におけるその徒歩圏人口カバー率は全国平均を上回る水準となっています。
- ・特に、商業に関しては、高岡駅周辺の「中心商店街」のほか、大型ショッピングセンターも多く集積しており、住民からも買い物の利便性が高く評価されていますが、郊外型店舗の立地等により中心性が低下しつつあります。

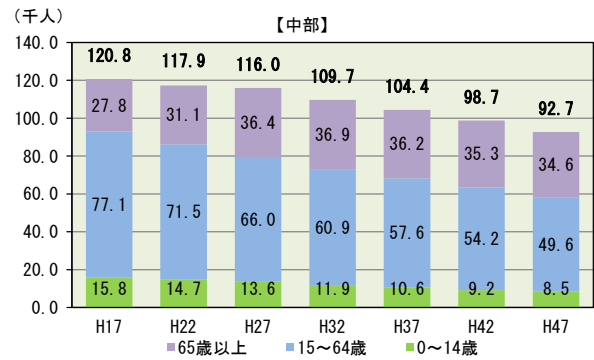
(交通)

- ・高岡駅を結節点として JR 城端線・氷見線、あいの風とやま鉄道、万葉線が放射状に延び、牧野や立野地区との繋がりが深いほか、高岡駅～新高岡駅間や内環状線内はバスの運行本数も多く公共交通を利用しやすい環境が整っています。このため、他地域と比較して住民からの公共交通機関に対する評価が高く、能町駅・越中中川駅・西高岡駅では通勤通学など日常的に利用する住民（定期利用者）が増加しています。
- ・周辺地域と連絡する放射道路に加え、高岡 IC へのアクセス道路となる地域高規格道路、高岡北 IC に連絡する戦略的道路の整備により、市内や広域的な拠点性の向上が期待されています。

(その他)

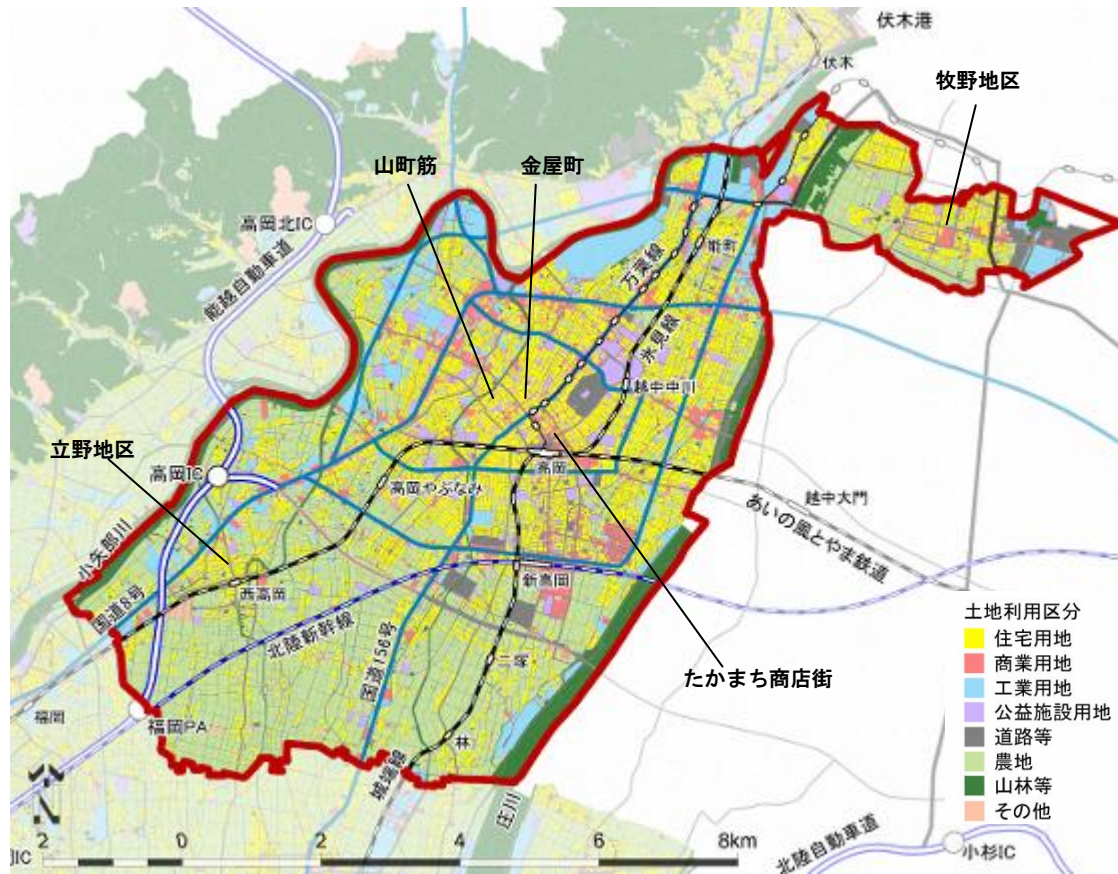
- ・中心市街地の商業地では、地価の下落率は大きくなっていますが、周辺市街地の地価よりも高く、狭隘な道路事情や間口の狭い町家が残っていることも相まって、まちなか居住が進まない要因の一つにもなっており、空き家も増加しています。

種別	項目	データ
面積	市全体	20,957 ha
	中部地域	6,083 ha
	市全体に占める割合	29.0 %
人口 (H27)	市全体	172,125 人
	中部地域	116,267 人
	市全体に占める割合	67.5 %



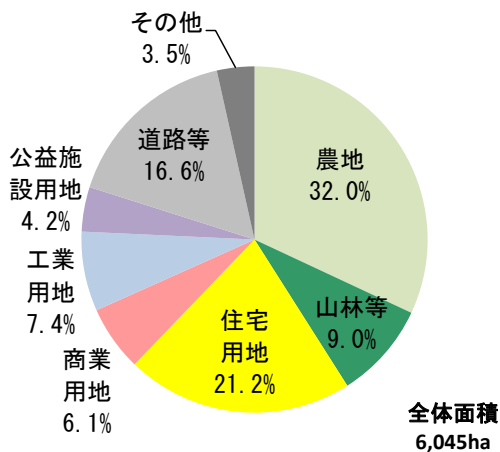
(資料：国勢調査)

図表 地域の概況（面積・人口）



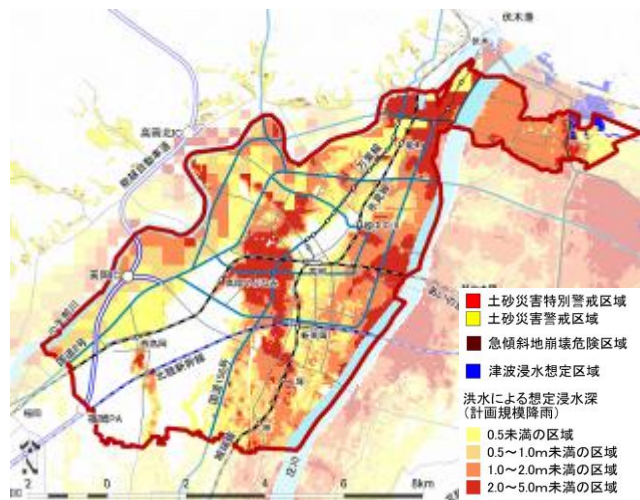
(資料：H25 都市計画調査)

図 土地利用現況



(資料：H25 都市計画調査)

図 土地利用現況面積割合



(資料：高岡市ハザードマップ)

図 土砂災害・洪水・津波浸水の危険性のあるエリア

2-2. 中部地域のまちづくりの方向性

(1) 地域の強みと弱みについて

地域の概況から、中部地域が持つ「強み」と「弱み」は、次のように整理できます。

中部地域の「強み」

- 多くの都市機能が集積した利便性の高い市街地。
- 他地域と比較して公共交通が充実しており、徒歩や公共交通を利活用して生活できる環境。
- 他地域からも人々を呼び込むことができる多くの歴史・文化資産。

中部地域の「弱み」

- まちなかに残る狭隘道路と密集市街地。
- 古い町並みの中で増加しつつある空き家。
- 住宅の価格・家賃が周辺よりも高額。
- 津波や洪水、地震時の家屋倒壊や延焼等の災害危険性を有する市街地。

(2) 地域のまちづくりにおける課題

地域の「強み」の部分を伸ばし、「弱み」の部分を改善していく観点から、中部地域のまちづくりにおける課題は以下のように整理することができます。

中部地域のまちづくりにおける課題

- ◎既存ストックを最大限に活用するためのまちなか居住の推進
- ◎各種都市機能と産業の集積による拠点性の維持・向上
- ◎まちなかに賑わいを取り戻すための商業業務や観光の活性化
- ◎充実した公共交通と道路ネットワークのさらなる活用
- ◎城下町から町民主体の商工業の町として発展してきた歴史・文化資産を回遊する仕組みの構築
- ◎延焼火災等の災害リスクを抱える密集市街地や狭隘道路の改善

(3) 地域のまちづくりのテーマ

中部地域が、城下町の長い歴史を継承しながら、今後も交通結節機能を活かし県西部の中核都市にふさわしい機能と魅力がある地域とするため、まちづくりのテーマを次のように設定します。

【まちづくりのテーマ】

◎ 県西部の中核都市にふさわしい機能と魅力のあるまちづくり

- ・市全体の中心として、さらに県西部の中核都市として、都市活力を牽引する高次都市機能の集積と併せて、都市の求心力につながる魅力の向上に取り組みます

◎ 交通ネットワークを活かした多くの人々にぎわうまちづくり

- ・充実した交通ネットワークを活かして、周辺地域や近隣都市と連携しながら、市内外から多くの人々が訪れる賑わいのあるまちづくりを進めます

◎ 加賀前田家ゆかりの町民文化を身近に感じられるまちづくり

- ・町民主体の商工業の町として発展した歴史と文化を継承し、高岡らしい風情や情緒と都市の賑わいを感じながら、徒歩や公共交通を利活用して暮らせる環境づくりを進めます

2-3. 中部地域のまちづくり方針

(1) 人口減少・少子高齢社会の中で持続的に発展する都市づくり

① 中心市街地の維持・再生と空き家対策の推進

小中学校など公共施設やインフラ等の既存ストックや様々な都市機能が集積する中心市街地と、公共交通などを利用してこうした利便性の高い地域へアクセス可能な地域に居住や都市機能を誘導することで、長い歴史をかけて築き上げてきた中心市街地の維持・再生を図ります。

空き家の活用に関する支援を行いながら、空き家・空き地情報バンクを活用し流通の促進を図ります。防災上や景観上、衛生上問題のある空き家の適正な管理や除却を促し、放置することが不適切と判断された特定空家等に関しては、助言、勧告等を行うなど、危険を未然に防ぐための除却支援などを行います。

② 計画的な低未利用地の有効活用

まとまった低未利用地においては、地域の特性や実情を踏まえながら計画的な住宅や生活利便施設などの整備へ向け、必要に応じた用途地域の見直しや地区計画等の活用を図り、民間主導による開発を促進します。

また、木津や志貴野地区では土地区画整理事業の実施により計画的な市街地形成を進めます。

③ 長期未着手の都市計画道路の見直し検討

都市計画決定されてから長期間未着手となっている都市計画道路については、社会経済情勢を踏まえた将来のまちづくり上の必要性を勘案し、見直しを行います。

④ 開発と保全の調和のとれた土地利用

幹線道路沿道や市街地隣接エリアなど新たに住宅や店舗等の立地が予想される市街化調整区域では、開発と保全の調和のとれた土地利用を推進することで、無秩序な市街化を抑制します。

(2) 中心市街地と周辺市街地が連携して躍動する都市づくり

① 県西部の都市活力を牽引する広域都市拠点の形成

中心市街地～高岡駅～新高岡駅を中心とする都心エリアに、居住や公共、医療、商業、教育・文化、交流など市全体ならびに県西部全体の都市活動を支える高次都市機能が集積する広域都市拠点を形成します。また、周辺市街地の地域生活拠点との連携、役割分担により、都市全体でバランスの取れた発展を目指します。

② 身近な生活サービス機能が集積する地域生活拠点の形成

牧野地区と立野地区においては、居住や商業や医療など地域の生活に必要なサービス機能が集積する地域生活拠点を形成し、広域都市拠点と連携、役割分担しながら、都心エリアと一体となった活性化を図ります。

③ 拠点を中心としたコンパクトな市街地の形成

ア 住居系土地利用

内環状道路の内側と主要幹線道路沿道の複合住宅地区では、低層及び中高層の住宅を中心としつつ、商業業務施設や工業施設等の立地も許容する中・高密度で複合的な土地利用を誘導します。特に、中心市街地においては、空き家や空き地の利活用、マンション等の共同住宅の建設により、まちなかへの移住・定住を図ります。

その周辺地域や牧野や立野地区の一般住宅地区では、低層の戸建住宅・共同住宅を中心とする低密度な土地利用を基本として、ゆとりある良好な居住環境の維持・保全を図ります。なお、住居系土地利用内のまとまった未利用地、特に公共交通の利便性の高い地域については、地区計画等を活用して、利便施設も含めた計画的な住宅地の形成を図ります。

イ 商業系土地利用

都心エリアの広域商業地区では、商業業務施設、各種公共施設、中高層マンション等の都市型住宅が集積する高密度な土地利用を誘導します。

牧野地区と立野地区の生活商業地区では、商業業務施設、各種公共施設及び住宅が集積する中密度な土地利用を維持・誘導します。

ウ 工業系土地利用

小矢部川沿い、富山新港に面した牧野地区、高岡 IC 周辺の工業地区では、既存の工業集積を維持するとともに、未利用地や必要な条件の整った跡地への新たな企業誘致を進めます。

地方卸売市場周辺、問屋センター周辺の流通業務地区では、既存の流通業務施設の維持・活用を図るとともに、地元製造業や小売業との連携のもと、流通業務の多様化・簡素化に対応できるように機能向上を支援します。

エ 自然系土地利用

市街地を取り巻く優良農地の保全と有効活用を図るとともに、小矢部川・庄川などの河川の自然環境の保全及び適正な維持管理を図ります。

優良農地の周囲に広がる田園集落では、農業の担い手の確保等を通じた地域コミュニティの活性化と併せて無秩序な市街化の抑制に努めることで、良好な景観及び環境の保全を図ります。

オ その他

計画・開発促進地区に位置づけられた高岡やぶなみ駅・木津周辺では、新駅設置と併せた基盤整備を推進し、住宅を中心とした民間主導のまちづくりを促進します。

(3) 「ものづくり」を中心に活気ある産業を育む都市づくり

① 既存の工業地区やその周辺の環境整備

市内企業の新たな事業活動を促進するため、既存企業団地及びその周辺の基盤整備を進めます。また、企業の立地状況や企業のニーズ等を踏まえながら、さらなる企業集積を促進するために既存企業団地のリノベーション推進につながるよう努めます。

また、住居や店舗等への転用がみられる工業系用途地域では、職住近接の観点から市街地内での身近な働く場が維持・確保されるよう、適正な土地利用の規制・誘導に努めます。

② 商店街の活性化

中心市街地の「中心商店街」などにおいては、商店街の事業者等と連携しながら観光地と商店街を結ぶ回遊性の向上、空き家・空き店舗対策の支援や、新たな商業施設の立地誘導により、多くの買い物客や観光客で賑わう中心市街地の再生を目指します。

③ 消費人口の増加

商業・公益施設と共同住宅が一体となった複合ビルの整備、まちなかへの移住・定住、まちなかの雇用創出を通じた昼間人口の増大等により、中心市街地の賑わいを生み出す消費人口の増加を図ります。

(4) 広域間と地域間の交通ネットワークが充実した都市づくり

① 地域高規格道路や戦略的道路の整備促進

国・県などの関係機関と連携して能越自動車道へのアクセス強化を図るための地域高規格道路や、中心市街地までのアクセス性向上及び都心エリアの一体化を図るための戦略的道路整備の整備を促進します。

② 環状放射道路の整備

地域内及び地域間の円滑な交通処理のために、環状道路の未整備区間や、放射状道路である国道8号の未整備区間の整備を促進します。また、道の駅「万葉の里 高岡」については、休憩機能、地域振興機能、及び情報提供機能を高め、道路利用者の利便性向上を図ります。

③ その他の幹線道路の整備

地域内の交通処理の円滑化、防災性の向上、安全で快適な歩行者ネットワーク形成などの観点から、環状放射道路を補完するその他の幹線道路の整備を図ります。

④ 公共交通を利用しやすい環境づくり

交通事業者と連携し、利用者ニーズを踏まえた運行本数やダイヤの見直しに努めます。

地域内の交通手段であり、周辺市街地と連絡する交通軸でもある JR 城端線・氷見線については、直通化に向けた取組を推進します。また、あいの風とやま鉄道の高岡やぶなみ駅の設置により、公共交通のカバー率の向上を図ります。都心エリア内の移動を支える万葉線については、昭和町、新高岡駅方面への延伸に向けた課題解決に努めるとともに、実現に向けた取組を支援します。

これら充実した公共交通の集積を活かし、パークアンドライドの促進、レンタルサイクルの活用、相互利用可能な交通系 IC カードの導入など、公共交通を利用しやすい環境づくりを進めます。

また、地域の需要に応じて、地域によって運行される地域バス・地域タクシー等への支援を行います。

(５) 歴史・文化と自然を活かした都市づくり

① 高岡の歴史を伝える町並みの保全・活用

「歴史まちづくり計画」の重点区域に位置づけられた、山町筋、金屋町、吉久地区、瑞龍寺周辺、及び立野地区等の旧北陸道沿いにおいては、居住を誘導するほか、町家や空き家・空き店舗を工房、店舗、ゲストハウスなどにリノベーションするなど、文化財の保全・活用を促進します。

また、伝統的建造物群保存地区である山町筋と金屋町に加え、今後は吉久地区の重要伝統的建造物群保存地区選定に向けた取組を支援するほか、景観計画に基づく規制誘導や屋外広告物の規制強化等も検討し、歴史的風致の維持・向上を図ります。

② 市街地内の緑地確保と緑化推進

高岡古城公園やおとぎの森公園など市民全体が利用する公園の維持管理に努めるほか、牧野河川公園の整備を推進します。

また、地域住民等との協働・連携も検討しながら市街地内の公園緑地の適切な維持管理に努めるとともに、鉄道駅や公共施設周辺、主要幹線道路沿道や民有地の緑化により、緑豊かな美しいまちづくりを推進します。

③ 都市計画公園・緑地の見直し検討

都市計画決定されてから長期間未着手となったままの都市計画公園については、社会経済情勢や計画的な市街地形成の必要性等を勘案しながら、見直し検討を行います。

④ 市街地内農地の保全・活用

市街化区域の縁辺部に残る農地については、農産物の生産、防災、景観等の観点から、都市内の重要な役割を果たす一面があり、その保全・活用を図ります。

(６) 安全・安心で快適に暮らせる都市づくり

① 市街地の延焼危険性の軽減

大規模な地震による倒壊や延焼の危険性がある木造住宅密集地では、延焼遮断帯となる道路や公園緑地の配置、防火地域・準防火地域の運用のほか、建築物の耐震化、不燃化を促進します。

地震や火災の際に避難や消防活動を円滑に行えるよう、地域住民との連携のもと狭隘道路の改善を進めます。

② 津波被害や浸水被害の軽減

津波被害が想定される牧野地区の一部地域では、防波堤や護岸堤、消波工等の整備を促進するほか、避難ビルや避難経路等の確保に努めます。

また、市街地内には洪水による浸水想定エリアが広く分布することから、河川改修を促進するとともに迅速な避難を可能にするための避難体制の整備を進めます。

③ 安全で快適に歩ける歩行空間の整備

歴史的な風情を楽しめる市街地内の歩行環境の整備、自転車通行帯の整備及び自転車ネットワークの整備を通じて、徒歩や自転車で暮らせるまちづくりを推進します。

④ 景観や眺望に配慮した建築物の規制誘導

高岡古城公園に隣接する池の端通り景観形成重点地区においては、高岡古城公園の緑に調和した住宅地として、坂下町通りにおいては高岡大仏を中心とした歩いて楽しめるまちの実現のため、町並み景観を保全します。また、高岡駅周辺、新高岡駅周辺、及び瑞龍寺～前田利長墓所周辺のように、積極的な景観誘導を行うべき地域については、景観形成重点地区の指定に向けた検討を進めます。

その他、高岡古城公園などからの良好な眺望の確保のため、市街地内の建築物の高さ規制についても検討します。

中部地域

県西部の中核都市にふさわしい機能と魅力のあるまちづくり

市全体の中心として、さらに県西部の中核都市として、都市活力を牽引する高次都市機能の集積と併せて、都市の求心力につながる魅力の向上に取り組めます

交通ネットワークを活かした多くの人々でにぎわうまちづくり

充実した交通ネットワークを活かして、周辺地域や近隣都市と連携しながら、市内外から多くの人々が訪れる賑わいのあるまちづくりを進めます

加賀前田家ゆかりの町民文化を身近に感じられるまちづくり

町民主体の商工業の町として発展した歴史と文化を継承し、高岡らしい風情や情緒と都市の賑わいを感じながら、徒歩や公共交通を活用して暮らせる環境づくりを進めます

- 長期未着手の都市計画道路の見直し検討 …(1)
- 地域高規格道路や戦略的道路の整備促進 …(4)
- 都市計画公園・緑地の見直し検討 …(5)
- 市街地内農地の保全・活用 …(5)
- 景観や眺望に配慮した建築物の規制誘導 …(6)

計画的な低未利用地の有効活用 …(1)

環状放射道路の整備 …(4)

西部地域
小矢部方面

身近な生活サービス機能が集積する地域生活拠点の形成 …(2)

開発と保全の調和のとれた土地利用 …(1)

南部地域
砺波方面

高岡砺波SIC

【凡 例】

- 広域都市拠点
- 地域生活拠点
- 計画・開発促進地区
- 日常の移動手段のイメージ
 - 内側：主に徒歩と公共交通
 - 外側：主に自動車
- 都市間連携軸
- 地域間の連携
- 戦略的道路（供用中）
- 戦略的道路

- 高規格幹線道路
- 主要幹線道路（環状放射道路）
- その他主な幹線道路
- 鉄道（新幹線）
- 鉄道（JR・あいの風とやま鉄道）
- 鉄道（万葉線）
- 土地利用区分
 - 一般住宅地区
 - 複合住宅地区
 - 広域商業地区
 - 生活商業地区
 - 工業地区
 - 流通業務地区
 - 産業支援地区
 - 農業振興地区
 - 田園集落地区
 - 自然環境保全地区
 - 河川
- サイクリングコース
- 回遊ルート（ストリート構想）
- 地域境界

まちづくり方針

- (1)人口減少・少子高齢社会の中で持続的に発展する都市づくり
- (2)中心市街地と周辺市街地が連携して躍動する都市づくり
- (3)「ものづくり」を中心に活気ある産業を育む都市づくり
- (4)広域間と地域間の交通ネットワークが充実した都市づくり
- (5)歴史・文化と自然を活かした都市づくり
- (6)安全・安心で快適に暮らせる都市づくり

コンパクト・アンド・ネットワークの方針

- ・都心エリアに広域都市拠点を形成し市民のみならず、県西部の中核都市として必要な高次都市機能を誘導します。
- ・牧野地区と西高岡駅周辺に地域生活拠点を形成し、日常生活に必要な都市機能を誘導し、広域都市拠点と連携、役割分担しながら広域都市拠点と一体となった活性化を図ります。
- ・広域都市拠点と地域生活拠点を中心に公共交通の利便性の高い地域に居住を誘導します。

牧野地域



吉久の町並み



高岡駅



新高岡駅



万葉線



立野地域（道の駅 万葉の里 高岡）



図 中部地域のまちづくり方針図

3

北西部地域

3-1. 北西部地域の概況

(人口)

- ・ 地域の大半が市街化調整区域であり、市街化区域は小矢部川沿いの一部に指定されているのみで、5つの地域の中で最も人口が少ない地域となっています。

(産業)

- ・ 小矢部川沿いや高岡北 IC 周辺には、能越自動車道等の交通利便性を活かした大規模な企業団地の整備が進められ、二上工業地域、岩坪工業団地、手洗野工業団地、四日市工業団地の4地域で積極的に産業集積を進めることとしています。
- ・ また、地域内には、富山県工業技術センターや富山大学高岡キャンパスが立地するほか、今後は、中心市街地や伏木港から高岡北 IC へのアクセス性を向上するための戦略的道路の整備により、北西部地域の産業面での優位性がさらに向上することが期待されています。

(自然等)

- ・ 縄文時代から人々の営みが行われてきた西山丘陵地を中心とする地域であり、地域の大半が山林や農地等の自然的土地利用が占めています。
- ・ こうした豊かな自然環境は、地域の住みよさとして評価されていますが、土砂災害や洪水等の災害危険性のあるエリアも広く分布しています。

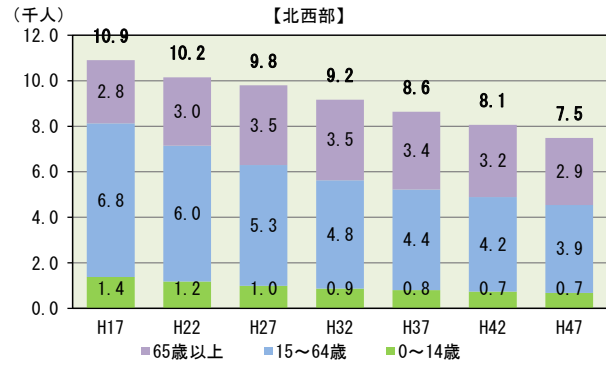
(交通)

- ・ 北西部地域には鉄軌道がなく、中心市街地や氷見市方面を結ぶバスが公共交通手段となっています。これらバスについては市内では比較的運行本数が多い路線となっていますが、公共交通空白地帯となっているエリアが広く、住みにくさの理由として通勤通学の利便性の悪さをあげる住民も多くいます。

(その他)

- ・ 住宅地の地価が他地域と比較して低く、住所を選択した理由としても住宅価格の安さがあげられています。一方、地域内にはまとまった商業集積がなく、住みにくさの理由として買い物のための店舗の少なさをあげる住民も多くいます。

種別	項目	データ
面積	市全体	20,957 ha
	北西部地域	4,271 ha
	市全体に占める割合	20.4 %
人口 (H27)	市全体	172,125 人
	北西部地域	9,790 人
	市全体に占める割合	5.7 %

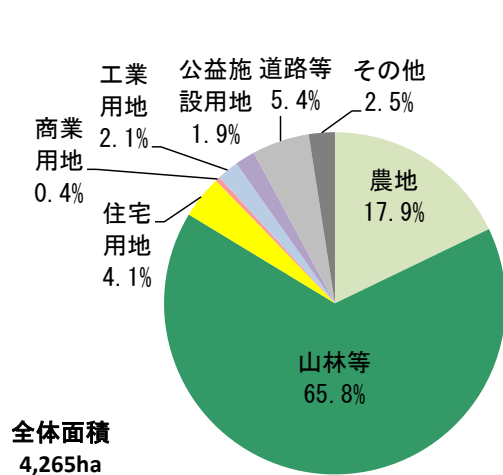


図表 地域の概況（面積・人口）



図 土地利用現況

(資料：H25 都市計画調査)



(資料：H25 都市計画調査)

図 土地利用現況面積割合



(資料：高岡市ハザードマップ)

図 土砂災害・洪水・津波浸水の危険性のあるエリア

3-2. 北西部地域のまちづくりの方向性

(1) 地域の強みと弱みについて

地域の概況から、北西部地域が持つ「強み」と「弱み」は、次のように整理できます。

北西部地域の「強み」

- 豊かな自然環境の中で入手可能な安い住宅地
- IC近接性を活かして整備された企業団地
- 産業支援機能を有する工業技術センターや大学の立地

北西部地域の「弱み」

- 中心市街地及び周辺地域への公共交通によるアクセス性の低さ
- 商業、医療等の都市機能集積の少なさ
- 土砂災害や洪水の危険性を持つ市街地や田園集落

(2) 地域のまちづくりにおける課題

地域の「強み」の部分を伸ばし、「弱み」の部分を改善していく観点から、北西部地域のまちづくりにおける課題は以下のように整理することができます。

北西部地域のまちづくりにおける課題

- ◎多くの企業団地を支えるインフラの適切な維持更新
- ◎周辺地域との連携強化による生活利便性の向上
- ◎交通便利性を活かした産業基盤整備の推進
- ◎地域の需要や特性を踏まえた公共交通の維持
- ◎地域の大半を占める豊かな自然環境の保全
- ◎自然災害による被害を軽減するための防災対策の推進

(3) 地域のまちづくりのテーマ

北西部地域が、周辺地域とも連携しながら、豊かな自然環境を活かしつつ高速交通網により市の産業を牽引する地域として持続していくため、まちづくりのテーマを次のように設定します。

【まちづくりのテーマ】

◎ 産業集積から都市の活力を生み出すまちづくり

- ・能越自動車道のICの周辺などものづくり産業と産業支援機能の集積から新たな雇用の場を生み出し、都市活力を牽引するまちづくりを進めます

◎ 丘陵地や田園などの自然環境と調和したまちづくり

- ・二上山や西山丘陵地や農地が広がる豊かな自然環境の中で、ゆとりあるライフスタイルを提供するまちづくりを進めます

◎ 周辺地域との連携による安心して暮らせるまちづくり

- ・道路や公共交通の交通ネットワークにより周辺地域の拠点と連携することで、安心して暮らせるまちづくりを推進します

3-3. 北西部地域のまちづくり方針

(1) 人口減少・少子高齢社会の中で持続的に発展する都市づくり

① 既存ストックの適切な維持更新

新たな市街地の拡大につながる無秩序な市街化は抑制する一方で、市民生活を支えるインフラなど、これまで整備してきた既存ストックについては適切な維持更新に努めます。

② 長期未着手の都市計画道路の見直し検討

都市計画決定されてから長期間未着手となっている都市計画道路については、社会経済情勢を踏まえた将来のまちづくり上の必要性を勘案し、見直しを行います。

(2) 中心市街地と周辺市街地が連携して躍動する都市づくり

① 中心市街地との連携による地域の活性化

中心市街地や周辺市街地へのアクセスの向上を図ることにより、公共交通を活用した広域都市拠点や地域生活拠点との連携により、日常的なサービス機能の確保を図ります。

② 地域内で連携できるコンパクトな市街地の形成

ア 住居系土地利用

二上地区の一般住宅地区では、低層の戸建住宅・共同住宅を中心とする低密度な土地利用を基本として、ゆとりある良好な居住環境の維持・保全を図ります。

イ 工業系土地利用

小矢部川沿いや高岡北 IC 及び高岡 IC 周辺の工業地区では、既存の工業集積を維持するとともに、未分譲地や必要な条件の整った跡地への新たな企業誘致を進めます。

富山県ものづくり研究開発センター等が立地する二上地区の産業支援地区では、既存機能の高度化に加え、新たな産業の創出に向けた大学や県・市の産業支援施設、研究開発施設などの集積を促進します。

ウ 自然系土地利用

小矢部川沿いの優良農地の保全と有効活用を図るとともに、小矢部川及び二上山・西山丘陵地などの自然環境の保全及び適正な維持管理を図ります。

優良農地の周囲に広がる田園集落や山間地域では、農業や林業の担い手の確保等を通じた地域コミュニティの活性化と併せて無秩序な市街化の抑制に努めることで、良好な景観及び環境の保全を図ります。

(3) 「ものづくり」を中心に活気ある産業を育む都市づくり

① 産業集積を通じた地域及び都市の活力の牽引

能越自動車道の交通利便性や産業支援施設等の集積を有効に活用し、既存の企業団地及びその周辺の基盤整備を進めることで、新たな雇用の場を生み出し、地域及び都市の活力を牽引する産業集積を促進します。

② 高岡北 IC 周辺の活用検討

計画・開発促進地区に位置つけた高岡北 IC 周辺は、求められる機能や開発需要等を総合的に勘案しながら、その活用について検討を行います。

③ 農林業の振興

耕作放棄地の増大や森林の荒廃を防止し、生産基盤の整備や、適正な森林施業による健全な森林資源の維持・整備、経営の安定と担い手の確保・育成のための支援を行い、地域ぐるみで適正な管理を行う体制づくりを進め、農林業の振興を図ります。

また、ボランティアの育成や市民との協働により、森林や里山の持つ公益的機能の維持・保全に努めます。

(4) 広域間と地域間の交通ネットワークが充実した都市づくり

① 広域間連携を担う高速交通網の整備促進

地域や都市の活力を牽引する東海北陸自動車道（全線4車化）や能越自動車道（事業化区間の早期完成と既供用区間の4車化）の整備促進を国に要望していきます。

② 戦略的道路による高岡北 IC からのアクセス強化

高岡北 IC から中心市街地や伏木港へのアクセス強化を図るため、国・県などの関係機関と連携して戦略的道路の整備を推進します。

③ 地域のニーズや特性に応じた公共交通の維持・充実

交通事業者と連携し、利用者ニーズを踏まえた運行本数やダイヤの見直しに努めます。また、地域の需要に応じて、地域によって運行される地域バス・地域タクシー等への支援を行います。

(5) 歴史・文化と自然を活かした都市づくり

① 丘陵地の古墳・遺跡の保存・活用

二上山や西山丘陵地に残る古墳や守山城跡をはじめとした遺跡の保存や管理、高岡市埋蔵文化財センターの活用にも努めるとともに、グリーン・ツーリズムなどの取組とも連携した活用を図ります。

② 身近な自然環境の保全・活用

二上山や西山丘陵地、小矢部川については、本市における身近な自然環境として保全・活用を図ります。また、つつじや桜の名所である水道つつじ公園など、公園施設の維持や情報提供の充実等を図ります。

③ 都市計画公園の見直し検討

都市計画決定されてから長期間未着手となったままの都市計画公園については、社会経済情勢や計画的な市街地形成の必要性等を勘案しながら、見直し検討を行います。

(6) 安全・安心で快適に暮らせる都市づくり

① 土砂災害による被害の軽減

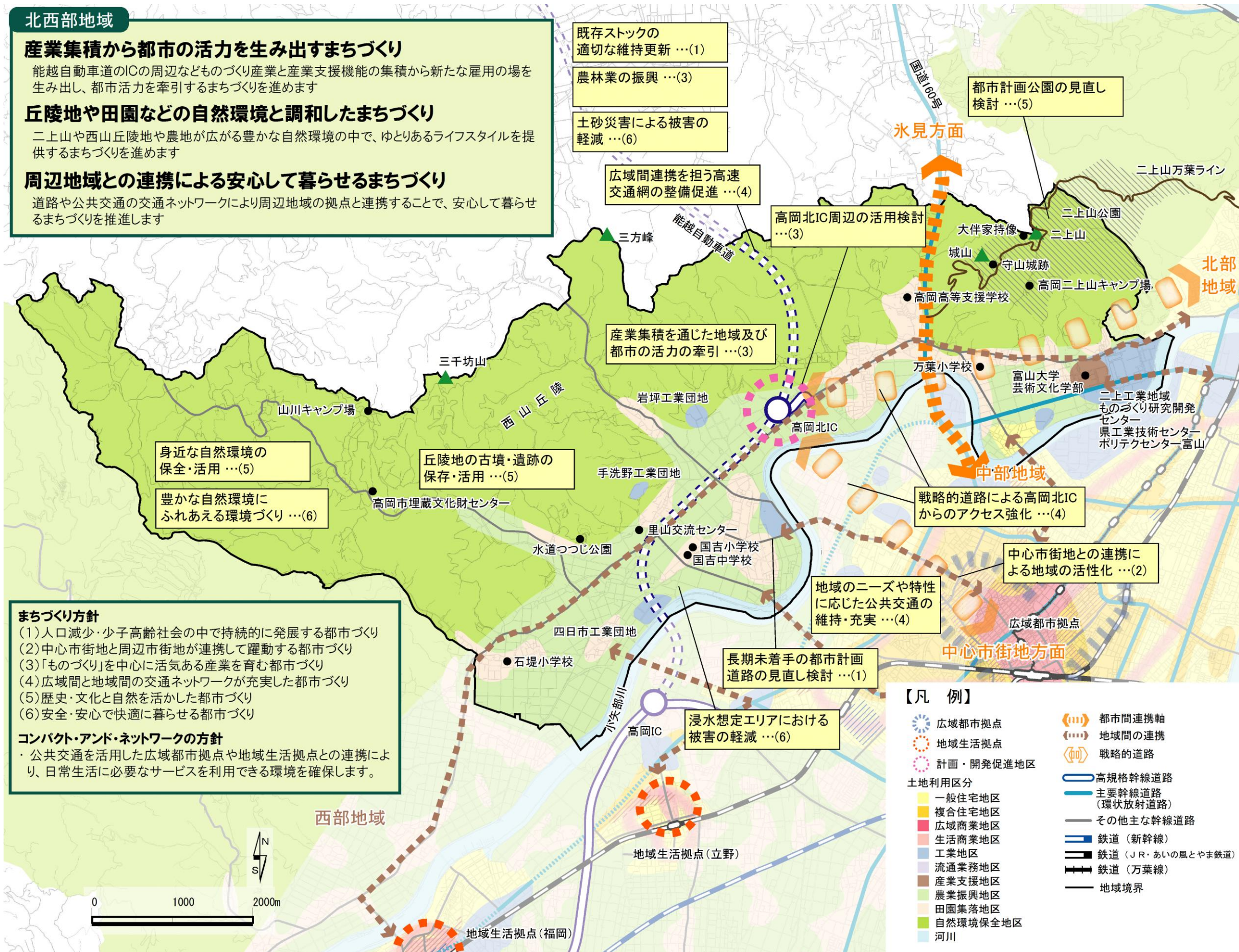
二上山や西山丘陵地において土砂災害が想定される地域では、警戒避難体制の充実に努めるとともに、危険が想定される新たな開発の抑制に努めます。

② 浸水想定エリアにおける被害の軽減

浸水が想定される市街化調整区域では、浸水被害を軽減するため、河川改修を促進するとともに迅速な避難を可能にするための避難体制の整備を進めます。

③ 豊かな自然環境にふれあえる環境づくり

二上山や西山丘陵地からの良好な眺望景観の確保や、良好な自然景観の保全・活用を図ります。また、市民参加の森づくりや、グリーン・ツーリズムの推進、資源リサイクルの推進など、環境と共生したまちづくりを推進します。



■ 二上山



■ 大学・研究施設



■ 高岡北インターチェンジ



■ 工業団地(四日市)



■ 西山丘陵



■ 水道つつじ公園



4

西部地域

4-1. 西部地域の概況

(歴史)

- ・旧北陸道沿いは菅笠の集散地として発展してきた地域であり、古くから菅笠づくりが盛んに行われ、菅田や菅干しなどの文化的な景観が今も残されています。
- ・平成17年の市町合併までは旧福岡町として、高岡市だけでなく、小矢部市や砺波市とも深い関わりを持ちながら発展してきた地域であり、北部地域と同じく地域コミュニティの繋がりが強く、地域への愛着や住みやすさを感じる住民の割合も高い地域です。
- ・旧高岡市域とは別の都市計画区域に指定されており、西側の中山間地は都市計画区域外となっています。また、非線引きの都市計画区域であるため、用途地域外については市街化調整区域のような厳しい土地利用規制が行われていない状態となっています。

(自然)

- ・中山間地には豊かな自然環境が残されており、自然環境を活かした五位山交流館などが整備されています。
- ・用途地域のうち駅南側にはまとまった低未利用地が多く残されており、他地域と比べて人口密度が非常に低い市街地となっています。

(災害)

- ・福岡駅北側には比較的まとまった市街地が形成されていますが、菅笠問屋の町並みをはじめ、地震時に倒壊危険性の高い建物が多く分布しています。
- ・小矢部川沿いには洪水による浸水想定エリアが分布しています。

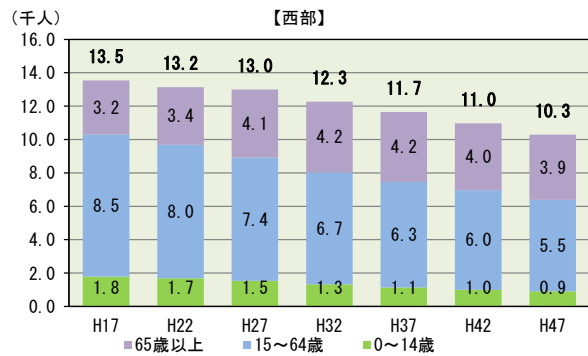
(都市機能)

- ・地域内に商業施設の立地が少ないことから、買い物の利便性は市の平均よりも低く、住民からも住みにくい理由として買い物の不便さが多くあげられています。

(交通)

- ・地域内には、あいの風とやま鉄道の福岡駅が設置されていますが、通勤通学など日常的に利用する住民（定期利用者）は減少しています。
- ・その他、中心市街地及び小矢部市方面を連絡する路線バス、福岡小学校を起点とする公営バスが運行されていますが、住民からは住みにくい理由として通勤通学の不便さが多くあげられています。

種別	項目	データ
面積	市全体	20,957 ha
	西部地域	5,870 ha
	市全体に占める割合	28.0 %
人口 (H27)	市全体	172,125 人
	西部地域	13,040 人
	市全体に占める割合	7.6 %



図表 地域の概況（面積・人口）



図 土地利用現況（都市計画区域）

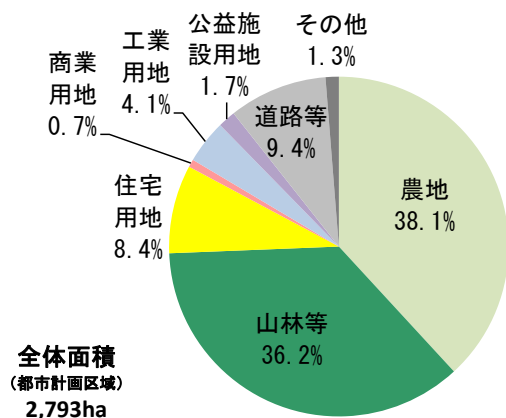


図 土地利用現況面積割合

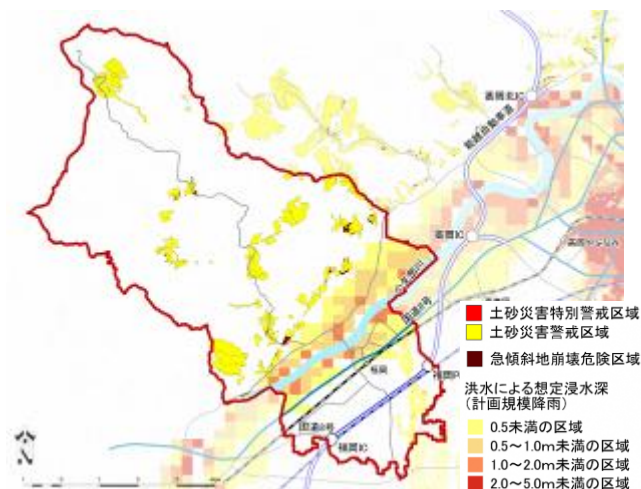


図 土砂災害・洪水・津波浸水の危険性のあるエリア

4-2. 西部地域のまちづくりの方向性

(1) 地域の強みと弱みについて

地域の概況から、西部地域が持つ「強み」と「弱み」は、次のように整理できます。

西部地域の「強み」

- 福岡駅前にコンパクトにまとまった市街地
- 中山間地に広がる豊かな自然環境と旧北陸道の歴史・文化
- 地域への愛着や住みやすさを感じる住民の多さ

西部地域の「弱み」

- 徒歩での買い物の利便性の低さ（人口が郊外に多く居住しているため）
- 用途地域内に多く残る低未利用地
- 用途地域外での市街地拡大の可能性

(2) 地域のまちづくりにおける課題

地域の「強み」の部分を伸ばし、「弱み」の部分を改善していく観点から、西部地域のまちづくりにおける課題は以下のように整理することができます。

西部地域のまちづくりにおける課題

- ◎新たな市街化抑制によるコンパクトな市街地の形成
- ◎駅を中心にした生活サービス機能の集積
- ◎交通利便性を活かした新たな産業の受け皿の確保
- ◎豊かな自然環境の保全と宿場町などの独自の歴史・文化の継承
- ◎建物倒壊等の災害リスクを抱える市街地の改善

(3) 地域のまちづくりのテーマ

西部地域が、菅笠の集散地として発展してきた長い歴史を継承し、今後も豊かな自然と利便性を備えた地域として持続していくため、まちづくりのテーマを次のように設定します。

【まちづくりのテーマ】

- ◎ **旧北陸道沿いの菅笠の集散地として発展した歴史と文化を継承するまちづくり**
 - ・菅の生産や菅笠づくりや養鯉業などの独自の歴史や文化を活かして、地域への愛着や誇りを醸成し、観光客など人を引き付けるまちづくりを進めます
- ◎ **駅前を中心に都市機能がコンパクトにまとまったまちづくり**
 - ・路線バスや公営バスの結節点であり、商業、医療、交流など生活サービス機能が集積している駅前を中心に利便性の高いコンパクトなまちづくりを進めます
- ◎ **都市と自然との交流から山村地域の活力を生み出すまちづくり**
 - ・農業・林業などの産業振興や、交流施設を活かした都市と山村地域との交流人口の増加により、山村地域の活力を維持する取組を進めます

4-3. 西部地域のまちづくり方針

(1) 人口減少・少子高齢社会の中で持続的に発展する都市づくり

① 鉄道駅を中心とした市街地の維持・再生

福岡駅前土地区画整理事業による基盤整備を進めており商業、医療などの都市機能が集積し、交通利便性も高い福岡駅前を中心に居住や都市機能を維持・誘導することで、旧北陸道の宿場町や菅笠問屋の町から発展してきた市街地の維持・再生を図ります。

② 計画的な低未利用地の有効活用

福岡駅前土地区画整理事業の推進により、市街地内の土地を有効活用します。
一方、用途地域内の低未利用地については、新たな公共投資の増加につながらないよう、無秩序な市街化の抑制に努め、都市内農地としての有効活用を検討します。

③ 白地地域における規制誘導の検討

他地区と比べて土地利用規制が緩やかな白地地域においては、優良農地や田園環境の保全を図る観点から、今後の開発の進展等も勘案しながら、新たな規制・誘導の必要性について検討を行います。

(2) 中心市街地と周辺市街地が連携して躍動する都市づくり

① 地域生活拠点の形成

商業や医療など地域の生活に必要なサービス機能が集積する地域生活拠点を福岡駅前に形成し、広域都市拠点と連携、役割分担しながら西部地域の活性化を図ります。

② 地域内で連携できるコンパクトな市街地の形成

ア 住居系土地利用

国道8号沿道の複合住宅地区では、低層及び中高層の住宅を中心としつつ、商業業務施設等の立地も許容する中・高密度で複合的な土地利用を図ります。

その周辺の一般住宅地区では、低層の戸建住宅・共同住宅を中心とする低密度な土地利用を基本として、ゆとりある良好な居住環境の維持・保全を図ります。特に、福岡駅前の一般住宅地区では、積極的な居住の誘導を図ることとします。

イ 商業系土地利用

福岡駅前の生活商業地区では、商業業務施設、各種公共施設及び住宅が集積する中密度な土地利用を維持・誘導します。

ウ 工業系土地利用

国道8号沿道や福岡駅南側の工業地区及び福岡IC周辺の大滝工業団地では、既存の工業集積を維持するとともに、未分譲地や必要な条件の整った跡地への新たな企業誘致を進めます。

エ 自然系土地利用

市街地を取り巻く優良農地の保全と有効活用を図るとともに、小矢部川や西山丘陵地の自然環

境の保全及び適正な維持管理を図ります。

優良農地の周囲に広がる田園集落や山間地域では、農業や林業の担い手の確保等を通じた地域コミュニティの活性化と併せて無秩序な市街化の抑制に努めることで、良好な景観及び環境の保全を図ります。

(3)「ものづくり」を中心に活気ある産業を育む都市づくり

① 地域内への優良企業の誘致

市街地内の工業系用途地域や能越自動車道の交通利便性を有効に活用した大滝工業団地内の未分譲地を中心に優良企業の誘致を進めます。

② 地域と連携した商店街の活性化

福岡の商店街では、地域との連携を通じて交流の場としての商店街づくりに努めるとともに、商店街が取り組む空き家・空き店舗対策の支援、日用品を中心とした商業施設の維持・誘導により活性化を図ります。

③ 農林業の振興

耕作放棄地の増大や森林の荒廃を防止し、生産基盤の整備や、適正な森林施業による健全な森林資源の維持・整備、経営の安定と担い手の確保・育成のための支援を行い、地域ぐるみで適正な管理を行う体制づくりを進め、農林業の振興を図ります。

また、ボランティアの育成や市民との協働により、森林や里山の持つ公益的機能の維持・保全に努めます。

(4) 広域間と地域間の交通ネットワークが充実した都市づくり

① 戦略的道路による福岡地区における東西アクセスの強化

国・県などの関係機関と連携して、福岡地区と都心エリアとのアクセス強化のため、福岡地区における東西アクセスを強化する戦略的道路の整備を検討します。

さらに、福岡の市街地をはじめ西部地域から北陸自動車道及び能越自動車道を利用する際の利便性向上を図るため、市街地に近接する福岡PAにおけるIC化を目指します。

② 連携強化につながる幹線道路の整備

地域間・拠点間を連絡する国道8号については、交通処理の円滑化、防災性の向上などの観点から暫定供用中の区間の整備を促進します。

③ 地域のニーズや特性に応じた公共交通の維持・充実

あいの風とやま鉄道や路線バスの利用しやすい環境づくりのため、交通事業者と連携し、利用者ニーズを踏まえた運行本数やダイヤの見直しのほか、駅舎におけるバリアフリー化を働きかけていきます。さらに、福岡駅では、駅前広場、駐車場、駐輪場等の整備により、乗換の利便性向上を図ります。

西部地域内を連絡する公営バスについては、地域の日常生活に必要な交通手段として路線の維持に努めます。

（５）歴史・文化と自然を活かした都市づくり

① 旧北陸道沿いの町並みの保存・活用

「歴史まちづくり計画」の重点区域に位置づけられ、「景観計画」による景観形成重点地区にも指定された旧北陸道沿いでは、沿道の建造物の修景等への支援や快適な歩行空間の創出等により町並みの保全・形成を進め、歴史的風致の維持・向上を図ります。

② 菅笠づくりや養鯉業の文化の継承

菅笠問屋の町として発展し、自然環境に適して発達した菅笠づくりや養鯉業、つくりもんまつりなど、西部地域独自の文化については、後継者の育成や技術の維持・存続によってその継承に努めます。

③ 市街地内農地の保全・活用

用途地域内に残る農地については、農産物の生産、防災、景観等の観点から、都市内の重要な緑地として保全・活用を図ります。

（６）安全・安心で快適に暮らせる都市づくり

① 土砂災害による被害の軽減

西山丘陵地において土砂災害が想定される地域では、警戒避難体制の充実に努めるとともに、危険が想定される新たな開発の抑制に努めます。

② 浸水想定エリアにおける被害の軽減

浸水が想定される市街化調整区域では、浸水被害を軽減するため、河川改修を促進するとともに迅速な避難を可能にするための避難体制の整備を進めます。

③ 地域の伝統的景観の保全・活用

地域の伝統的な景観である菅田や菅干しの風景については、後継者の育成などの取組と一体となってその保全を図ります。

岸渡川の両岸約1 kmにわたる桜並木については、毎年多くの人が訪れる観光スポットでもあり、水辺環境の保全と併せて桜並木の景観の保全・活用を図ります。

④ 豊かな自然環境にふれあえる環境づくり

五位山地域では、五位山交流館など自然環境を活かした施設などを中心に、都市と農山村の交流の場を提供します。また、生活環境の整備や交流の促進を通じて農山村の振興を推進するとともに、西山丘陵地の良好な自然景観の保全・活用を図ります。

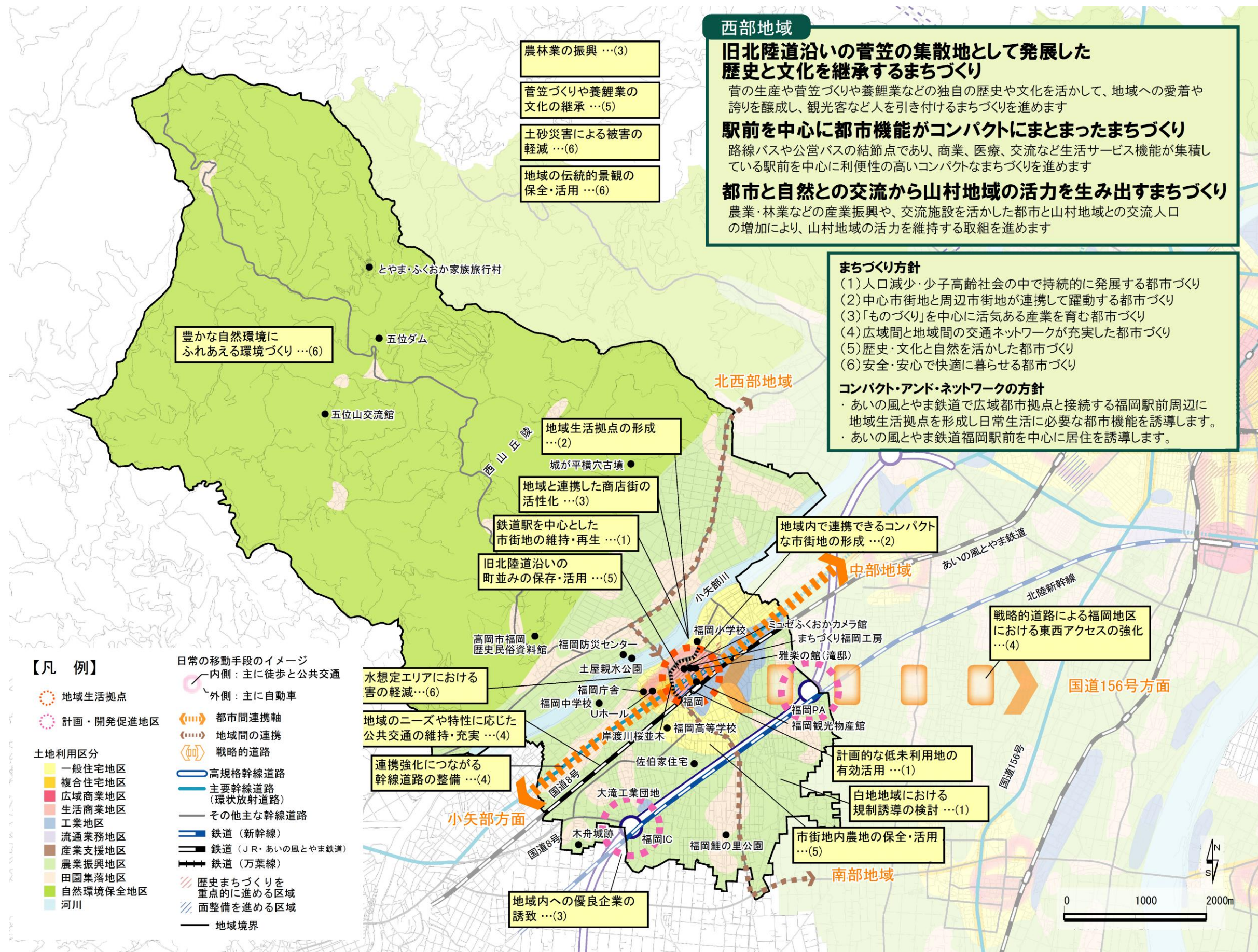


図 西部地域のまちづくり方針図

■ 五位山交流館



■ 旧北陸道の町並み



■ 福岡駅前



■ 菅田の風景と菅笠製作



■ 工業団地（大滝）



5-1. 南部地域の概況

(人口)

- ・戸出と中田の2つの市街地を中心とする地域であり、近年は、土地区画整理事業によって多くの住宅地が整備され地域面積に比して多くの人口が居住する地域であり、生産年齢人口の割合が高く、市内では最も高齢化率が低いことから、他の地域と比べて人口減少が緩やかに進む見通しとなっています。

(産業)

- ・地域内には、高岡市デザイン・工芸センターや富山県総合デザインセンター等の公共支援施設が立地し、オフィスパークを含め多くの企業団地が整備されていますが、全て分譲が完了しており、新たな企業団地の造成が計画されています。

(自然)

- ・市街地の周辺にはこの地域特有の散居村の景観が残されています。

(災害)

- ・中田地区では御坊山の一部に土砂災害の危険性のあるエリアがあるほか、庄川沿いのエリアでは洪水による浸水想定エリアが分布しています。
- ・地震による災害危険性は低くなっています。

(都市機能)

- ・医療、高齢者福祉、商業などの生活サービス機能の集積が中部地域に次いで多く、住所選択の理由では、子育て施設や医療施設の充実が多くあげられています。
- ・ただし、これら生活サービス機能は市街地外にも広く分布し、人口集積と施設集積が必ずしも一致していないことから、徒歩圏人口カバー率としては低い状態となっています。

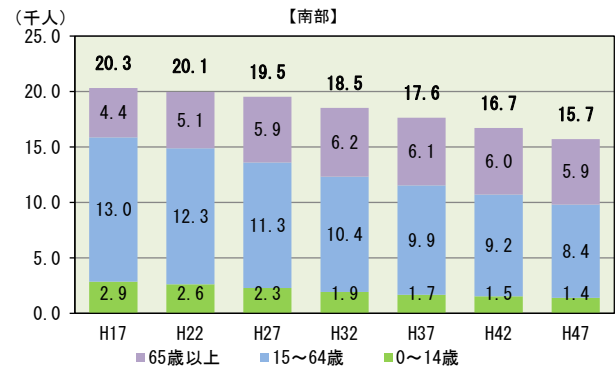
(交通)

- ・地域内には JR 城端線の戸出駅があり、利用者数はほぼ横ばいで推移しています。中田の市街地には鉄軌道がなく、中心市街地方面に連絡する路線バスが主な公共交通手段となっています。これら公共交通は、運行本数が多くないため、公共交通の面での利便性は低い状態となっています。
- ・市街地内には複数の都市計画道路が計画されているが、計画決定されてから長期未着手となっています。

(その他)

- ・地域の住みにくさの理由としては、仕事・収入の場が少ないこととともに、通勤通学の便の悪さがあげられています。
- ・住宅地の地価は中部地域に次いで高い水準となっていますが、住所選択の理由では住宅取得のしやすが多くあげられており、面整備による住宅供給が若い世代の増加につながっていると考えられる一方、土地区画整理事業で整備された住宅地の中には未利用地が多く残されています。

種別	項目	データ
面積	市全体	20,957 ha
	南部地域	3,083 ha
	市全体に占める割合	14.7 %
人口 (H27)	市全体	172,125 人
	南部地域	19,245 人
	市全体に占める割合	11.2 %



図表 地域の概況（面積・人口）

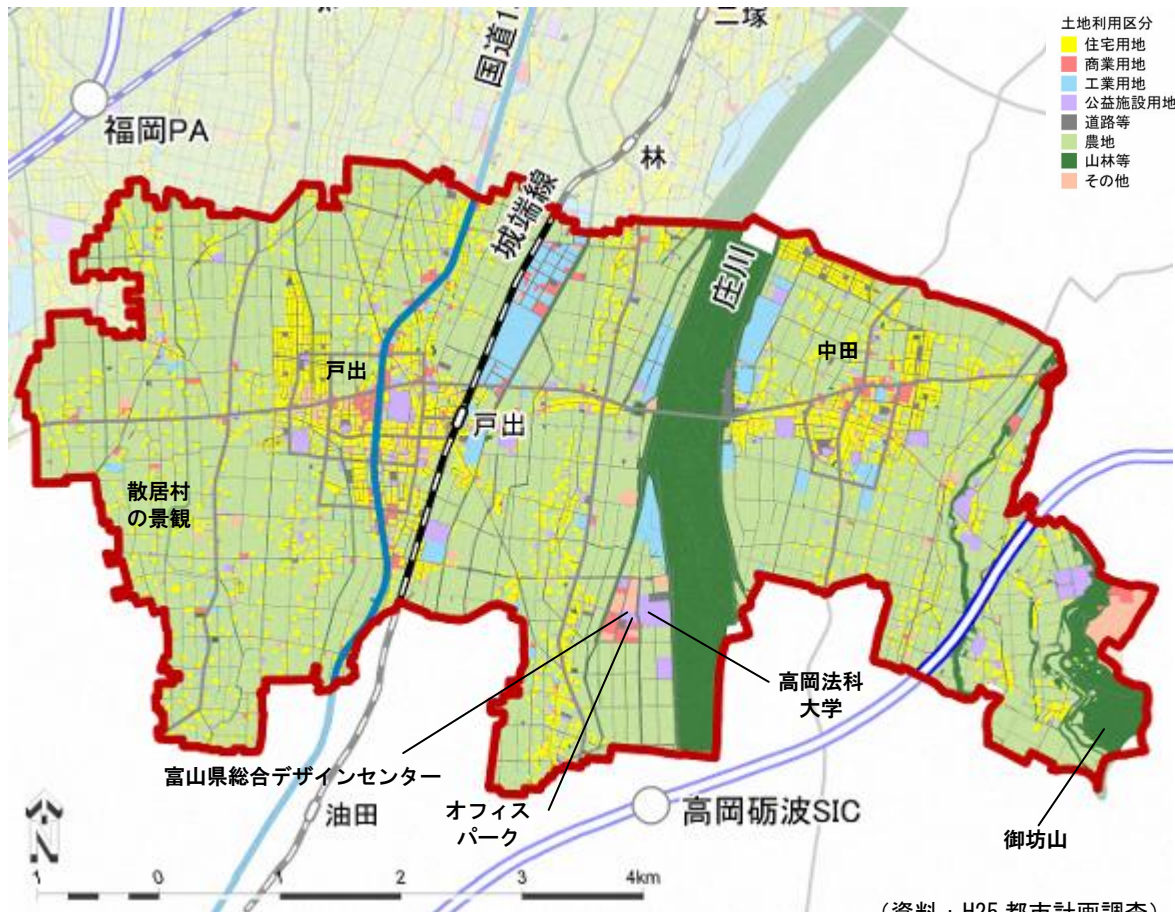


図 土地利用現況

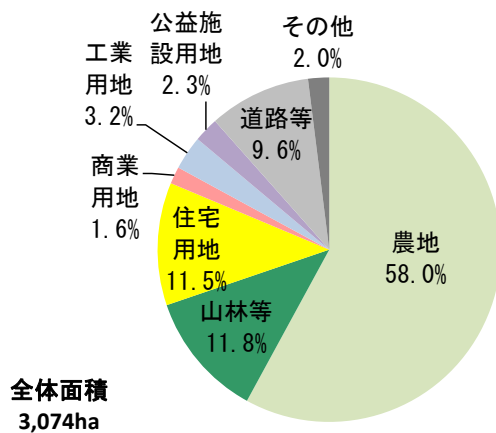


図 土地利用現況面積割合

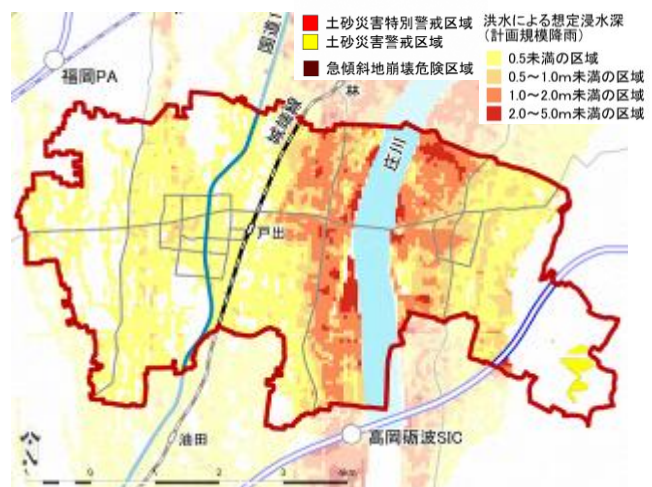


図 土砂災害・洪水・津波浸水の危険性のあるエリア

5-2. 南部地域のまちづくりの方向性

(1) 地域の強みと弱みについて

地域の概況から、南部地域が持つ「強み」と「弱み」は、次のように整理できます。

南部地域の「強み」

- 土地区画整理事業等による良好な住宅地の供給
- 他地区と比べて生産年齢人口割合が高く、人口減少の傾向も緩やか
- 各種都市機能が充実した住環境
- 先端技術や伝統産業が集積する企業団地、産業支援機能を有するオフィスパークや大学の立地

南部地域の「弱み」

- 中心市街地及び周辺地域に連絡する公共交通が不足
- 都市機能が充実し、企業や工場の立地も進んでいるが、地域の住民が身近で働ける場が不足
- 人口が減少する中で残されている多くの未整備施設（一部の都市計画道路は廃止を予定）

(2) 地域のまちづくりにおける課題

地域の「強み」の部分を伸ばし、「弱み」の部分を改善していく観点から、南部地域のまちづくりにおける課題は以下のように整理することができます。

南部地域のまちづくりにおける課題

- ◎面整備によって開発された住宅地や企業団地の維持・活用
- ◎人口集積を考慮した生活サービス機能の立地誘導
- ◎若い世代が地域内で働ける場の拡大
- ◎地域間を連絡する道路ネットワークの充実
- ◎散居村の景観や御坊山や庄川などの自然環境の保全
- ◎災害リスクを軽減するまちづくりの推進

(3) 地域のまちづくりのテーマ

南部地域が、散居村の景観や伝統を継承しつつ、若い世代を中心に住宅と働く場を提供する地域として持続していくため、まちづくりのテーマを次のように設定します。

【まちづくりのテーマ】

◎ 高速交通網を活かした産業集積から都市の活力を生み出すまちづくり

- ・高速交通網による優位性を活かし、伝統産業や近代産業に加え新たな産業を創造し、魅力的な働く場の拡大による活力あるまちづくりを推進します

◎ 散居村の田園環境と共生するまちづくり

- ・水と緑に囲まれ文化的な景観を形成している散居村の集落やホタルが生息する豊かな水資源を保全し、独自の美しい田園景観と調和するまちづくりを進めます

◎ 多様な産業や豊かな自然と良好な住環境が調和したまちづくり

- ・生活サービス施設が充実した住環境を活かし、生活サービス機能の集約・維持や交通アクセスの充実を図り、産業と自然、暮らしが調和したまちづくりを進めます。

5-3. 南部地域のまちづくり方針

(1) 人口減少・少子高齢社会の中で持続的に発展する都市づくり

① 鉄道駅等を中心とした市街地の維持・再生

鉄道やバスによって中心市街地や近隣市にアクセス可能であり、土地区画整理事業等によって基盤整備が行われた戸出駅周辺や支所・図書館・公民館などの行政サービス機能を備えた中田コミュニティセンター周辺に居住を誘導することで、戸出地区及び中田地区の市街地の維持・再生を図ります。

② 計画的な低未利用地の有効活用

計画・開発促進地区に位置付けた戸出北部地区における新たな良好な宅地を供給するため、計画的な民間主導による開発を促進します。

③ 長期未着手の都市計画道路の見直し検討

都市計画決定されてから長期間未着手となっている都市計画道路については、社会経済情勢を踏まえた将来のまちづくり上の必要性を勘案し、見直しを行います。

④ 開発と保全の調和のとれた土地利用

幹線道路沿道や市街地隣接エリアなど新たに住宅や店舗等の立地が予想される市街化調整区域では、開発と保全の調和のとれた土地利用を推進することで、無秩序な市街化を抑制します。

(2) 中心市街地と周辺市街地が連携して躍動する都市づくり

① 地域生活拠点の形成

商業や医療など地域の生活に必要なサービス機能が集積する地域生活拠点を戸出駅及び中田コミュニティセンター周辺に形成し、広域都市拠点と連携、役割分担しながら南部地域の活性化を図ります。

② 地域内で連携できるコンパクトな市街地の形成

ア 住居系土地利用

国道 156 号及び県道富山戸出小矢部線沿道の複合住宅地区では、低層及び中高層の住宅を中心としつつ、商業業務施設等の立地も許容する中・高密度で複合的な土地利用を図ります。

その周辺の一般住宅地区では、低層の戸建住宅・共同住宅を中心とする低密度な土地利用を基本として、ゆとりある良好な居住環境の維持・保全を図ります。特に、戸出駅周辺や中田コミュニティセンター周辺の一般住宅地区では、積極的な居住の誘導を図ることとします。

イ 商業系土地利用

戸出地区及び中田地区の生活商業地区では、商業業務施設、各種公共施設及び住宅が集積する中密度な土地利用を維持・誘導します。

ウ 工業系土地利用

戸出工業団地、高岡機械工業センター、中田上麻生工業団地などの工業地区では、既存の工業

集積の維持に努めるほか、戸出西部金屋工業地域において新たな産業拠点となる戸出西部金屋産業団地（仮称）の整備を推進します。

高岡オフィスパークでは、オフィスや研究所等の産業業務施設及び公共の産業支援施設が集積する産業支援地区として、産業支援施設、研究開発施設などの集積を促進します。

エ 自然系土地利用

市街地を取り巻く優良農地の保全と有効活用を図るとともに、庄川や御坊山の自然環境の保全及び適正な維持管理を図ります。

優良農地の周囲に広がる田園集落では、担い手の確保等を通じた地域コミュニティの活性化と併せて無秩序な市街化の抑制により、散居村の趣を残す農村景観及び農村環境の保全を図ります。

（３）「ものづくり」を中心に活気ある産業を育む都市づくり

① 企業団地の造成

高岡砺波 SIC の活用や企業の立地状況、企業のニーズ等を踏まえ、身近な働く場の確保につながる高岡オフィスパークに隣接した企業団地の造成を推進し、地区計画の活用により計画的な企業団地の形成を図ります。

② 地域と連携した商店街の活性化

戸出と中田の商店街では、地域との連携を通じて交流の場としての商店街づくりに努めるとともに、商店街が取り組む空き家・空き店舗対策の支援、日用品を中心とした商業施設の維持・誘導により活性化を図ります。

③ 農林業の振興

耕作放棄地の増大を防止し、生産基盤の整備や、経営の安定と担い手の確保・育成のための支援を行い、地域ぐるみで適正な管理を行う体制づくりを進め、農業の振興を図ります。

（４）広域間と地域間の交通ネットワークが充実した都市づくり

① 連携強化につながる幹線道路の整備

周辺地域と連絡する県道富山戸出小矢部線については、交通処理の円滑化、防災性の向上、交通安全等などの観点から整備を促進します。

② 地域のニーズや特性に応じた公共交通の維持・充実

JR 城端線や路線バスの利用しやすい環境づくりのため、交通事業者と連携し、利用者ニーズを踏まえた運行本数やダイヤの見直しに努めます。

また、地域の需要に応じて、地域によって運行される地域バス・地域タクシー等への支援を行います。

（５）歴史・文化と自然を活かした都市づくり

① 地域の歴史を伝える環境整備

戸出御旅屋の門などの文化財の保全・活用や、「七夕まつり」や「かかし祭り」をはじめとする

地域内の祭りやイベント等を通じて、戸出地区と中田地区の歴史を伝えるとともに、新たに移り住んできた人々も含めたコミュニティづくりへとつなげていきます。

② 豊かな水資源の保全・活用

環境省の「平成の名水百選」にも選定された「弓の清水」やホタルが生息する河川など、自然豊かな水辺環境の保全を図ります。

そのほか、御坊山の丘陵地や庄川については、身近な自然環境として保全を図ります。

（６）安全・安心で快適に暮らせる都市づくり

① 土砂災害による被害の軽減

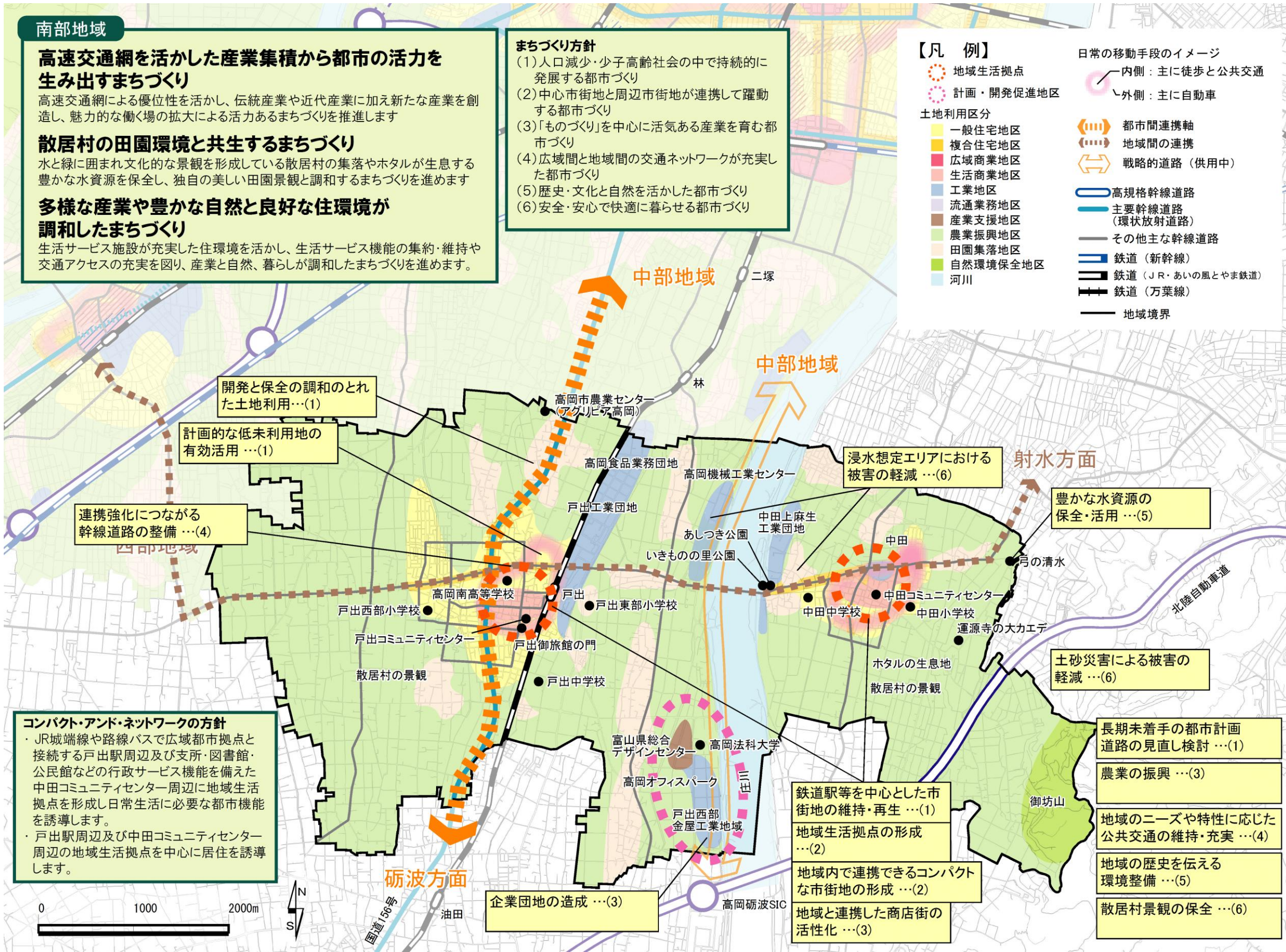
御坊山において土砂災害が想定される地域では、警戒避難体制の充実に努めるとともに、危険が想定される新たな開発の抑制に努めます。

② 浸水想定エリアにおける被害の軽減

庄川沿いの洪水による浸水想定エリアが広く分布する市街化調整区域については、浸水被害を軽減するため、河川改修を促進するとともに迅速な避難を可能にするための避難体制の整備を進めます。

③ 散居村景観の保全

人々の生活の中で培われてきた地域特有の集落形態で、文化的な景観を形成している散居村の景観を保全するため、優良農地や屋敷林の維持・保全を図ります。



■ 城端線



■ コミュニティセンター



■ 戸出西部金屋工業地域、オフィスパーク



■ 散居村の風景



■ いきものの里公園



図 南部地域のまちづくり方針図

第3章 都心エリアのまちづくり方針

(1) 都心エリアの概要

1) 都心エリアの位置づけと役割

都心エリアは、新高岡駅から高岡駅を経て中心市街地に至る一体的なエリアとして、本市のみならず県西部地域における中心的役割を担うエリアとして位置づけられています。

都心エリアは、城下町の風情や情緒を残す町並みや多くの歴史・文化資産を含むなど、高岡らしさを感じられる空間となっています。

また、高岡古城公園やスポーツコア、多くの商業・業務施設が集積する商店街など、様々な都市機能が集積し、市内外の人々が訪れる空間ともなっています。

都心エリアは、本市の都市活力を牽引する重要なエリアであることから、5つの地域区分とは別に具体的なまちづくりの方向性を示すこととします。



図 都心エリア位置図

2) 都心エリアにおけるこれまでの取組

都心エリアは、昭和40年代のステーションビルの建設、北陸初の地下街の整備等により求心力のある商業地づくりが進められた後、複数の市街地開発事業により市街地の整備を進めてきました。近年は、中心市街地活性化の取組として、商店街の活性化やまちなか居住も進めてきており、高岡駅・新高岡駅の整備と併せた道路等の基盤整備も進んだことから、広域的な交通結節点としての機能は大きく向上しました。

金屋町や山町筋の歴史的町並みは、重要伝統的建造物群保存地区に選定されているほか、平成23年に国に認定された歴史まちづくり計画では、高岡城跡、瑞龍寺、加賀藩主前田家墓所（前田利長墓所）などと一体的に「重点区域」に指定され、高岡の歴史や伝統を伝えるための取組が進められています。また、これら歴史・文化を市民や観光客が楽しく歩いて巡ることができるよう、たかおかストリート構想に基づく歩行者回遊ルートの整備も進められています。

（２）都心エリアのまちづくりのテーマ

県西部地域の中核的都市にふさわしいにぎわいと魅力ある空間を創出するために、都心エリアでは、これまで継承されてきた歴史・文化、これまで整備してきた都市機能を活かしながら、広域的な交流・連携を拡大することで、多様な世代が暮らし続けられるまちづくりを進めることを目指します。

このため、都心エリアで進めていくまちづくりのテーマについては次のように設定します。

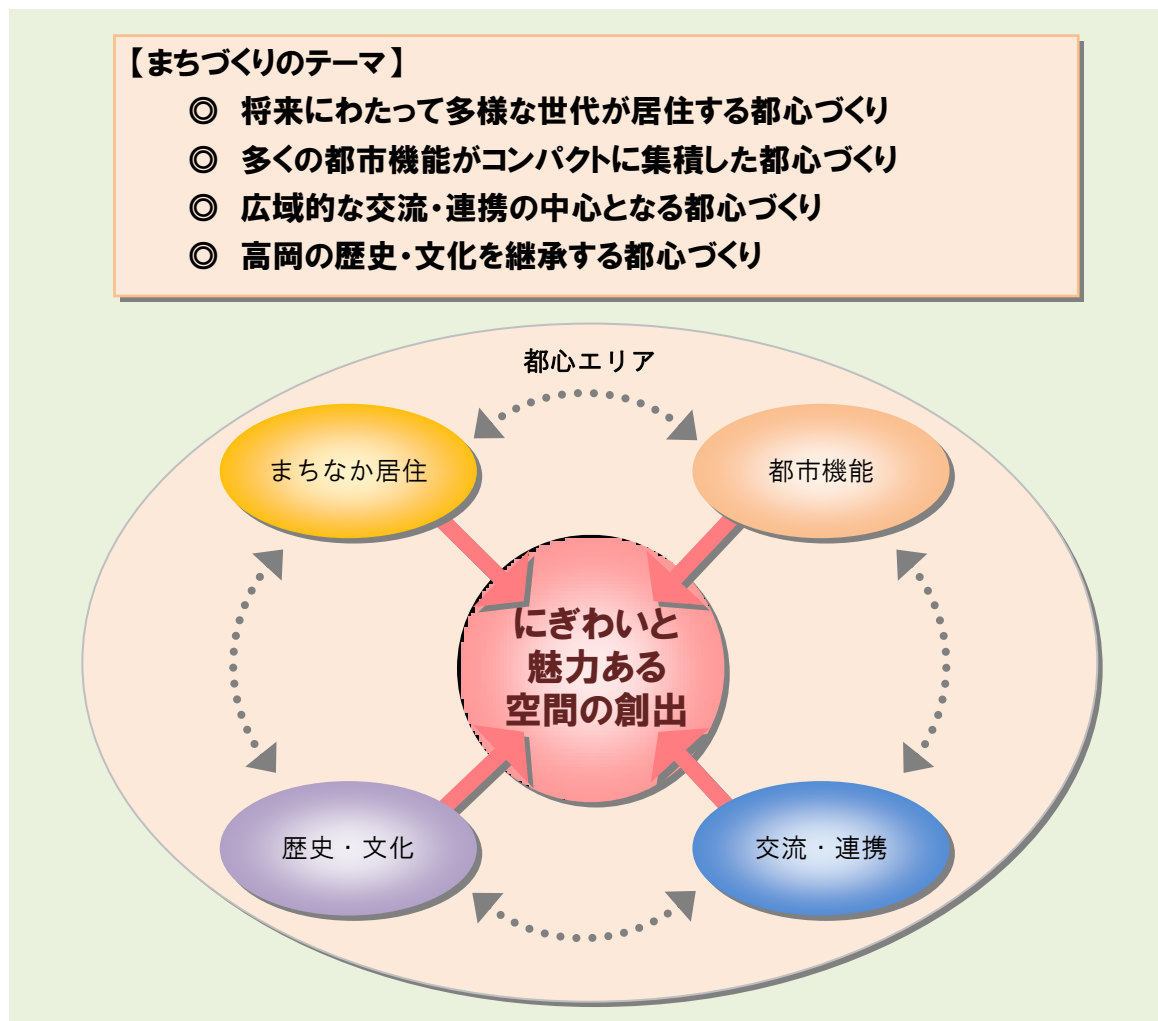


図 都心エリアにおけるまちづくりのテーマ

(3) 都心エリアのまちづくり方針

1) 将来にわたって多様な世代が居住する都心づくり

① 都心に賑わいを生み出すまちなか居住の推進

中心市街地を含む都心エリアでは、全市の傾向と比べて高齢化が進展しており、若い世代でもまちなかで土地や住宅の取得ができるよう、「まちなか居住推進総合対策事業」による住宅購入やリフォームに対する支援を行うことでまちなか居住を推進します。

近年増加している空き家・空き地については、適正な管理が行われるよう指導に努めるとともに、空き家入居者等への支援や居住の受け皿としての空き家・空き地情報バンク等による流通を促進します。

その他、まちなかに多くの雇用の場を創出し、徒歩や公共交通を中心としたライフスタイルを提案することで、まちなかに居住したいという意向を持つ人々を増やしていきます。

② 既存ストックを有効に活用するための市街地再生

都心エリアには城下町の町割りや町並みが今も残されていますが、その一方で、狭隘な道路や密集した木造住宅も多く残されており、防災性や快適性の面で改善が必要な地区もみられます。このため、歴史的建造物の保存や歴史的な町並みの保全と並行して、防火地域・準防火地域による不燃化を促進するほか、地元意向を踏まえて再開発や共同建て替えなども検討し、快適で安全な居住環境づくりを進めます。

特に、狭小間口の町家が多く残るまちなかでは、単体での建替が難しい場合に空き家や空き地になってしまうケースもみられるため、隣接する土地・建物の購入や除却に対する支援を通じて既存ストックの有効活用を促進します。

また、リノベーションまちづくり基本方針や、地域の空き家を活用して交流拠点や防災拠点を整備した博労地区の取組、山町筋における民間団体による空き店舗のリノベーション、金屋町における既存の伝統的建造物を活用した移住体験施設「さまのこハウス」などをモデルとして、まちなかの再構築に向けた取組を各地区で展開します。

③ 高齢になっても楽しく暮らし続けられる環境づくり

これからの少子高齢社会が進展する中においては、車を利用できない高齢者の生活を重視したまちづくりが重要となるため、都心エリアの充実した鉄軌道やバスのネットワークを活かして、徒歩と公共交通を利活用して暮らすことができる地域づくりを目指します。

このため、鉄道駅・電停・バス停や主要な公共施設、道路などにおけるバリアフリー化を図るとともに、安全で快適に歩くための歩行空間の確保を図ります。

また、中心市街地や観光地を巡る歩行者回遊ルートの形成と併せて、トイレや休憩施設の設置、立ち寄れる店舗や飲食店の誘導を図るなど、市民並びに観光客にとって安全で快適な歩行空間の整備を進めます。

2) 多くの都市機能がコンパクトに集積した都心づくり

① 市全体の利便性向上につながる高次都市機能の維持・集積

本市が県西部の中核的都市としての役割や機能を維持するため、近隣都市から都心エリアに円滑にアクセスできる交通ネットワークを維持・強化するとともに、周辺市街地エリアと連携、役割分担しながら市内のどこでも便利に暮らすことができるよう、都心エリア内に行政施設（市役所本庁舎、国県施設）、福祉施設（福祉拠点施設）や教育・文化施設（専修学校、生涯学習センター、図書館、博物館）などの高次都市機能の維持・集積を図ります。

② 商店街活性化と商業業務機能の強化

中心市街地の商店街においては、末広町通り、御旅屋通りを中心に観光地と商店街を結ぶ回遊ルートを形成し、観光振興と連携した活性化を目指します。

中心市街地の空き地や空き店舗を活用して新規開業する事業者に対して、改修費や賃借料の一部を支援し、賑わいの創出を図ります。また、空き家や空き店舗などの遊休資産を活かし店舗等への再生を図る「リノベーションまちづくり」に取り組み、民間主体のまちづくりを促してまちの魅力を高めます。

高岡駅前の核施設であるステーションビル、駅前地下街や高岡駅前東地区の整備と一体となった高岡駅前のにぎわい創出を図ります。なお、老朽建築物や低未利用地が多く存在する高岡駅前東地区では、土地の集約化と基盤整備を通じて商業業務施設の拡充、コンベンション施設や交流施設の整備、居住機能の確保が図られるよう、民間活力による開発事業を支援します。

③ 5つのゾーンの役割分担と機能連携

歴史的な経緯や都市機能集積などの特性が異なる5つのゾーンについて、各ゾーンの役割や目指す土地利用等の方向性を明確にして機能連携を図ることで、一体的な都心エリアの形成を目指します。

3) 広域的な交流・連携の中心となる都心づくり

① 大都市圏及び都市間と連絡する交通結節点の機能強化

北陸新幹線（金沢～大阪間）の整備促進、高岡北 IC や高岡駅などの拠点間を結ぶ戦略的道路の整備等を通じ、本市及び県西部の結節点としての役割を担う高岡駅と、飛越能地域の玄関口としての役割を担う新高岡駅のそれぞれが担う広域的な機能の強化を図ります。

また、高岡駅を起点に南北方向に向かう JR 城端線・氷見線については、両線の乗換利便性を向上させるための直通化に向けた取組を推進します。

このほか、都市間と拠点間を連絡する都市交通軸は、交通事業者と連携して維持・充実を図ります。

② 都心エリア内の公共交通手段の充実

高岡駅～新高岡駅間の都心交通軸については、JR 城端線と路線バスによるアクセスの維持・充実を図るほか、万葉線延伸の実現に向けた取組を支援します。

高岡駅～中心市街地間については、歴史的町並みゾーンへの回遊性向上を図るため、昭和町方面への万葉線延伸の実現に向けた取組を支援します。

③ 市民や観光客が交流できる空間づくり

高岡古城公園（高岡城跡）については、文化財としての価値を持つとともに、都心エリアのまとまった緑地として重要な役割を果たす空間であるため、公園内の自然環境の保全と併せて、市民及び観光客が憩い交流する空間としての整備を進めます。

なお、美術館、博物館、体育館等については、市民及び観光客が交流する重要な施設であるため、都心エリア内を中心に維持を図ります。

新高岡駅周辺では、首都圏等から訪れる人々を迎える空間として、交流・観光機能の充実を図ります。

4) 高岡の歴史・文化を継承する都心づくり

① 高岡の歴史・文化を回遊する「たかおかストリート構想」の推進

国宝「瑞龍寺」、重要文化財「菅野家住宅」、国史跡「加賀藩主前田家墓所（前田利長墓所）」・「高岡城跡」、重要伝統的建造物群保存地区に選定された山町筋・金屋町の町並みについては、今後もその保存と活用を図ります。

これら貴重な歴史・文化資産を巡る回遊ルートを設定するとともに、駐車場や歩行空間の整備、案内・誘導サインの設置、レンタルサイクルの活用に加え、沿道の方々の協力により、市民や観光客が安全で快適に歩ける環境づくりを進めます。

② 若い世代へ伝統産業や伝統文化を伝えるまちづくり

銅器や漆器といった伝統産業を継承するための取組を、山町筋・金屋町をはじめ歴史的風致が残る地域において推進し、新たな創造活動を生み出すアート空間など創造の場の創出を図ります。

ユネスコ無形文化遺産に登録された高岡御車山祭をはじめ、高岡獅子舞大競演会、高岡七夕まつり、クラフト市場街、高岡万葉まつり、日本海高岡なべ祭りといった多様な祭礼、催事を通じ、新たに移り住んだ人をはじめ若い世代にも高岡市の伝統や文化を伝え、愛着・誇りを醸成します。

③ 高岡の魅力を発信する空間づくり

観光客を含め市内外の多くの人が目にする高岡駅・新高岡駅周辺では、「パブリックアート」を活用して高岡らしい魅力的な都市空間を創出するとともに、今後は、屋外広告物規制の強化や一定以上の建築物に対する景観誘導のほか、眺望計画の確保、景観形成重点地区の指定についても検討します。

また、高岡駅・新高岡駅周辺における観光・交流施設の充実により、都心エリアの魅力だけでなく、5つの地域が持つ魅力も発信していきます。

④ 高岡の文化に触れる空間の創出

様々な文化活動やイベントを通じて、市民生活において文化や芸術に触れる機会を増やすとともに、市民、アーティストなど多様な人が交流し、新しい文化を生み出す創造の場の充実を図ります。

また、歴史・文化を巡る「たかおかストリート構想」とも連携し、高岡の文化に触れられる空間づくりを進めます。

歴史の町並みゾーン

「住む人」の安全・安心を育み、「来る人」が高岡らしい歴史・文化を感じられるまちづくり
 ➤ 山町筋や金屋町を中心に歴史・文化を活かした交流・観光の拠点となるゾーン

■ 金屋町（千本格子の家並み）



■ 山町筋（土蔵造りの町並み）



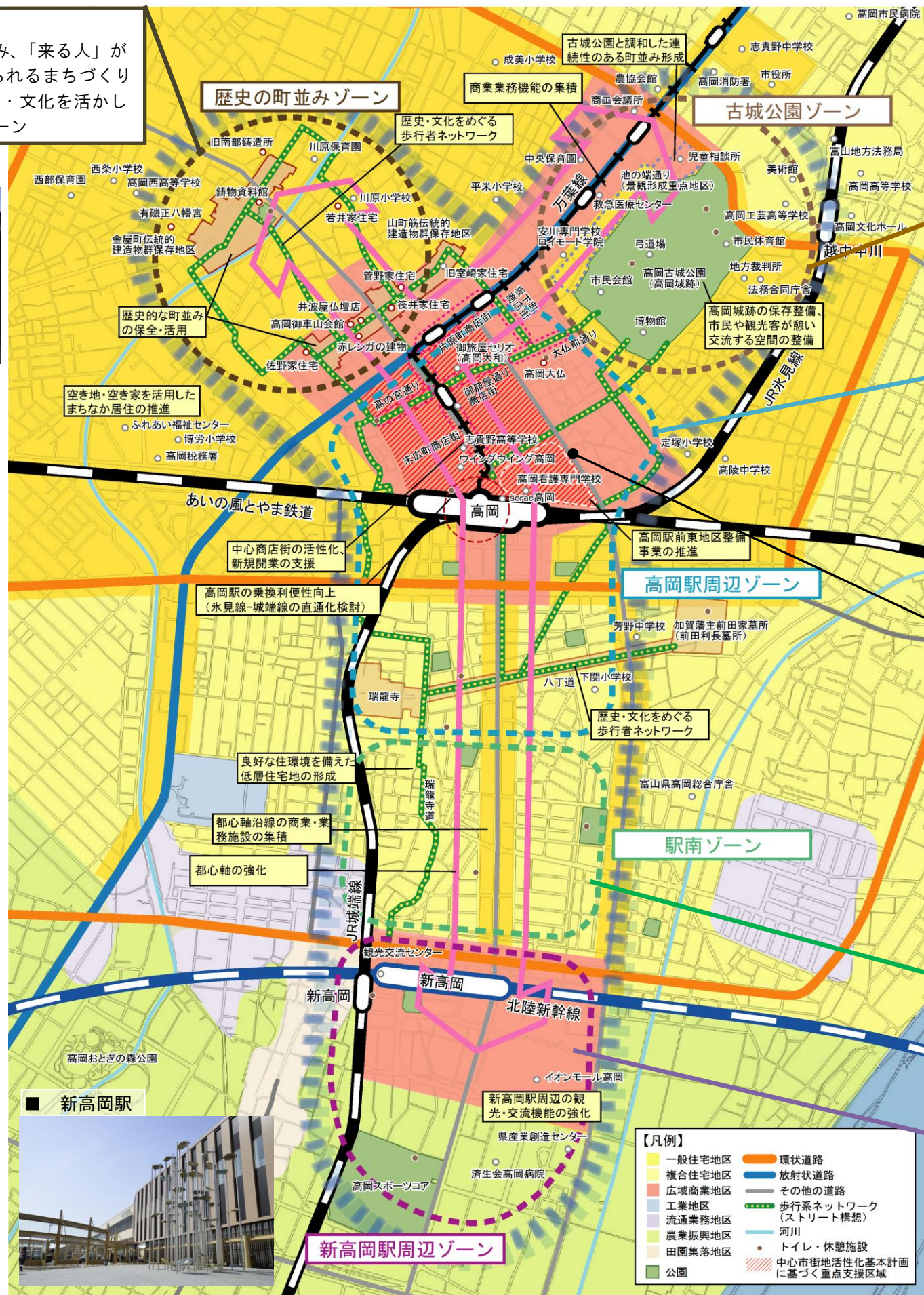
■ 赤レンガの建物



■ 高岡駅



■ 瑞龍寺道



【まちづくりのテーマ】

- ◎ 将来にわたり多様な世代が居住する都心づくり
- ◎ 多くの都市機能がコンパクトに集積した都心づくり
- ◎ 広域的な交流・連携の中心となる都心づくり
- ◎ 高岡の歴史・文化を継承する都心づくり

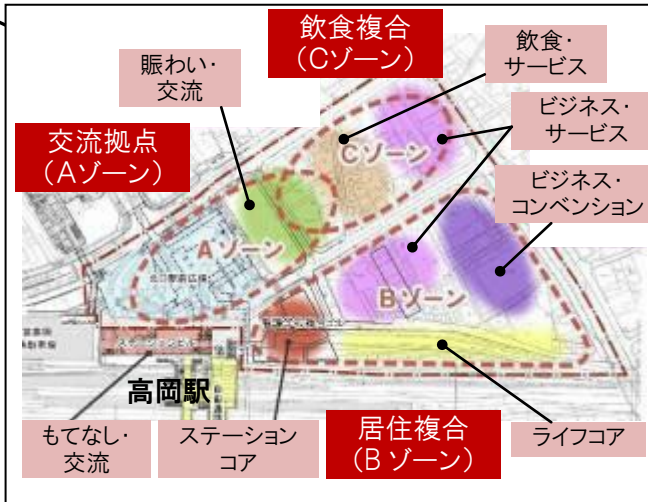
古城公園ゾーン

「住む人」が潤いある便利な生活を育み、「来る人」がまちなかの自然や歴史を堪能できるまちづくり
 ➤ 既存に立地する文化、交流や商業業務機能を中心とした高次都市機能を集約するゾーン

高岡駅周辺ゾーン

高岡市及び県西部の中核都市としての都市機能の集積を図り、「住む人」と「来る人」の活動を支えるまちづくり
 ➤ 県西部地域の交通結節点として交流・観光や商業業務機能を中心とした多様な高次都市機能を集約するゾーン

■ 高岡駅前東地区整備基本構想



駅南ゾーン

利便性が高く良好な居住環境の中で多様なライフスタイルを実現できるまちづくり
 ➤ 沿道サービスや業務機能と調和した良好な居住環境の形成を図るゾーン

新高岡駅周辺ゾーン

飛越能地域の玄関口として「来る人」を温かくもてなすまちづくり
 ➤ 大都市圏と飛越能地域との広域的な交通結節点として、交流・観光機能を中心とした高次都市機能の誘導を図るゾーン

■ 高岡古城公園(高岡城跡)



■ 高岡大仏



■ 瑞龍寺



■ 加賀藩主前田家墓所（前田利長墓所）



図 都心エリアのまちづくり方針図